

# 国際共産主義運動の 総路線についての提案

ソ連共産党中央委員会の1963年3月30日付の  
書簡にたいする中国共産党中央委員会の返書

外 文 出 版 社  
北 京

国際共産主義運動の  
総路線についての提案

ソ連共産党中央委員会の1963年  
3月30日付の書簡にたいする  
中国共産党中央委員会の返書

外文出版社  
北京

14

## 目次

国際共産主義運動の総路線についての提案…………… 三

ソ連共産党中央委員会三月三十日付の書簡にたいする中國共産党中央委員会の返書

(一九六三年六月十四日)

(付)

ソ連共産党中央委員会の中國共産党中央委員会あて書簡…………… 七

(一九六三年三月三十日)

中國共産党中央委員会のソ連共産党中央委員会あて書簡…………… 一三

(一九六三年三月九日)

ソ連共産党中央委員会の中國共産党中央委員会あて書簡…………… 一五

(一九六三年二月二十一日)

## 国際共産主義運動の総路線についての提案

ソ連共産党中央委員会の一九六三年三月三十日付の

書簡にたいする中国共産党中央委員会の返書

(一九六三年六月十四日)

ソ連共産党中央委員会

親愛な同志のみなさん

中国共産党中央委員会はソ連共産党中央委員会の一九六三年三月三十日づけの書簡を検討しました。

社会主義陣営の団結と国際共産主義運動の団結に関心をもつすべての人びとは、中ソ両党の会談をひじょうに注目しており、われわれの会談が意見の相違をとりのぞき、団結をつよめるのに役立ち、各国共産党・労働者党代表者会議の開催のため有利な条件をつくりだすよう望んでいます。

国際共産主義の隊列の団結をまもり、つよめることは、各国の共産党、労働者党の共同の神聖



な責任であります。中ソ両党は社会主義陣営ぜんたいの団結と国際共産主義運動ぜんたいの団結にたいしていつそう大きな義務を負っており、当然いつそう大きな努力をはらわねばなりません。

いま、国際共産主義の隊列のなかには一連の重大な原則的な意見の相違があります。しかし、こうした意見の相違がどんなに重大であるとしても、われわれはじゅうぶんに辛抱よく、意見の相違をとりのぞく道をさがしとめて、われわれの力を結集し、われわれの共同の敵に反対するたにかいを強めるようにしなければなりません。

中国共産党中央委員会は、ほかでもなく、こうした心からの願いをいっていて、ちかく開かれる中ソ両党の会談にのぞむものであります。

ソ連共産党中央委員会は三月三十日づけの書簡のなかで、中ソ両党会談のさい討論すべき問題について、系統的に自己の観点をしめし、とくに国際共産主義運動の総路線にかんする問題を提起されました。われわれもこの返書のなかで、国際共産主義運動の総路線と、これにかかわりあるいちぶの原則的な問題についてわれわれの観点をのべ、われわれの提案としたいと思ひます。

このように自分の観点をあきらかにすることが、われわれ両党の相互の理解に役だち、両党の

会談のさい逐条的にくわしく討論するのに役だつことを、われわれは望んでいます。

また、われわれがこのようにすることが、各国の兄弟党がわれわれの観点を理解するのに役だち、兄弟党の国際会議で十分に意見を交換するのに役だつことを、われわれは望んでいます。

① 国際共産主義運動の総路線は、プロレタリアートの歴史的使命に関するマルクス・レーニン主義の革命的理論を準則とするほかになく、この準則から離れてはなりません。

一九五七年と一九六〇年の二回にわたるモスクワ会議は、じゅうぶんに意見を交換したのち、話し合いで見解を統一する原則にもとづいて宣言と声明を採択しました。この二つの文書は、われわれの時代の特徴を指摘し、社会主義革命と社会主義建設の共通の法則を指摘し、各国の共産党、労働者党の共通の路線をとりよめました。この宣言と声明は、国際共産主義運動の共同綱領であります。

ここ数年らい、国際共産主義の隊列のなかには、一九五七年の宣言と一九六〇年の声明について、違った認識と態度がたしかに存在しています。こうした違った認識と態度の中心になる問題は、宣言と声明の革命的原則を認めるかどうかの問題です。究極のところ、マルクス・レーニン主義の普遍的な真理を認めるかどうかの問題であり、十月革命の道の普遍的な意義を認めるかどうかの問題であり、いまなお帝国主義と資本主義制度のもとにおかれている、世界人口の三分の

二をしめる人民が今後もお革命をおこなう必要のあることを認めるかどうかの問題であり、すでに社会主義の道をあゆんでいる、世界人口の三分の一をしめる人民が今後もお革命を最後までやりとげる必要のあることを認めるかどうかの問題であります。

一九五七年の宣言と一九六〇年の声明の革命的原則をだんて守りぬくことは、すでに当面の国際共産主義運動の重大なきしめまつた任務となっております。

マルクス・レーニン主義の革命的学説を堅持し、十月革命の共通の道を堅持してこそ、はじめて宣言と声明の革命的原則を正しく認識することができ、正しい態度をとることができるのです。

(二) 宣言と声明の革命的原則とはなにか。要約すればつぎのとおりです。

全世界のプロレタリアが団結し、全世界のプロレタリアが被抑圧人民、被抑圧民族と団結して、帝国主義と各国の反動派に反対し、世界平和、民族解放、人民民主主義、社会主義をたたかいたり、社会主義陣営の強化と発展をはかり、プロレタリア世界革命の完全な勝利をしいに実現し、帝国主義も、資本主義も、搾取制度も存在しない新しい世界をうちたてることであります。

われわれの考えでは、これこそ現段階における国際共産主義運動の総路線にほかなりません。

(三) この総路線は、世界の現実の全局面から出発したものであり、現代の世界の基本矛盾にたいする階級的分析から出発したものであり、アメリカ帝国主義の反革命的な世界戦略にむけられるものであります。

この総路線は、社会主義陣営と国際プロレタリアートを中核とし、アメリカを頭とする帝国主義と各国の反動派に反対する広はんな統一戦線をうちたてる路線であり、思いきつて大衆を立ちあがらせ、革命勢力を拡大し、中間勢力を獲得し、反動勢力を孤立させる路線であります。

この総路線は、各国人民がだんて革命闘争をおすすすめ、プロレタリア世界革命を最後までやりぬく路線であり、また、もつとも効果的に帝国主義に反対し、世界平和をまもる路線でもあります。

もし国際共産主義運動の総路線を一面的に「平和共存」とか、「平和競争」とか、「平和移行」とかに帰着させてしまうなら、それは、一九五七年の宣言と一九六〇年の声明の革命的原則にそむき、プロレタリア世界革命の歴史的使命を放棄し、マルクス・レーニン主義の革命的学説にそむくこととなります。

国際共産主義運動の総路線は、世界史の発展の一般法則をあらわすものでなければなりません。各国のプロレタリアートと各国人民の革命闘争は、それぞれ違った段階をたどるものであ

り、各自の特徴をもつでしょう、だが、いずれも世界史の発展の一般法則をふみこえることはできません。国際共産主義運動の総路線は、各国のプロレタリアートと各国人民の革命闘争のために基本的な方向をさしめすものでなければなりません。

各国の共産党、労働者党が自国の具体的な路線や政策をさだめるにあたって、マルクス・レーニン主義の普遍的な真理を自国の革命と建設の具体的な実践と結びつけるという原則を堅持することはひじょうに重要なことであります。

(四) 世界の政治、経済の総和、世界の具体的な状況、つまり現代の世界の基本矛盾に具体的な階級の分析をくわえることは、国際共産主義運動の総路線をきめる出発点であります。

もし具体的な階級の分析をさげたり、また手あたりしだいにいくつかの表面的な現象をさがしだしたりして主観的な臆測にもとづく判断をくだすなら、かならず、国際共産主義運動の総路線についての正しい結論をみちびきだすことはできず、マルクス・レーニン主義とはまったく違った別の軌道にそれるにちがひありません。

では、現代の世界の基本矛盾はなにか。マルクス・レーニン主義者は、ゆらい、こうした基本矛盾をつぎのように考えています。

① 社会主義陣営と帝国主義陣営の矛盾。

② 資本主義国内部のプロレタリアートとブルジョアツの矛盾。

③ 被抑圧民族と帝国主義の矛盾。

④ 帝国主義国と帝国主義国、独占資本グループと独占資本グループのあいだの矛盾。

社会主義陣営と帝国主義陣営の矛盾は、社会主義と資本主義という二つの根本的にことなる社会制度の矛盾であり、この種の矛盾はなんらの疑いもなくひじょうに鋭いものであります。しかし、マルクス・レーニン主義者は、世界的規模の矛盾を、単純に社会主義陣営と帝国主義陣営の矛盾だけであるとみなすわけにはいきません。

世界の力関係はかわりました。その変化は、社会主義にとってますます有利になり、全世界の被抑圧人民と被抑圧民族にとつてますます有利になっている一方、帝国主義と各国の反動派にとつてはひじょうに不利になっています。それにもかかわらず、以上にのべたこれらの矛盾はやはり客観的に存在しています。

これらの矛盾と、それによつてひきおこされる闘争は、たがいに結びついており、たがいに影響しあっています。人びとは、これらの基本矛盾のうちのどれひとつも抹殺することはできませんし、また、主観的にそのうちのひとつの矛盾を他の矛盾におきかえることもできません。

これらの矛盾はかならず各国人民の革命をひきおこしますし、また、各国人民の革命だけがこ

これらの矛盾を解決することができるのです。

(五) 現代の世界の基本矛盾の問題については、つぎのような誤った観点が批判されるべきです。

1 社会主義陣営と帝国主義陣営との矛盾の階級的内容を抹殺し、この種の矛盾をプロレタリアート独裁の国家と独占ブルジョアジーの独裁の国家との矛盾としてみようとする観点。

2 社会主義陣営と帝国主義陣営の矛盾だけを認めて、資本主義世界におけるプロレタリアートとブルジョアジーの矛盾、被抑圧民族と帝国主義の矛盾、帝国主義国と帝国主義国、独占資本グループと独占資本グループのあいだの矛盾、さらにはこれらの矛盾からひきおこされる闘争を軽視したり過小評価したりする観点。

3 資本主義世界におけるプロレタリアートとブルジョアジーの矛盾は自国のプロレタリアートの革命をへなくとも解決でき、また被抑圧民族と帝国主義の矛盾は被抑圧民族の革命をへなくとも解決できると考える観点。

4 現代の資本主義世界の固有の矛盾が発展すれば、かならず帝国主義諸国間の緊迫した闘争という新しい局面をひきおこすことを否定し、また「各大独占資本のあいだに国際協定が成立」すれば、帝国主義諸国間の矛盾を調和させ、さらには解消することさえできると考える観点。

5 社会主義と資本主義というこの二つの世界体制の矛盾は「経済競争」のなかで自然になくなり、世界のその他の基本矛盾もすべて二つの体制の矛盾がなくなるにつれて自然になくなり、いわゆる「戦争のない世界」とか、「全面的協力」の新しい世界とかというものがあらわれると考える観点。

これらの誤った観点がかならず誤った有害な政策をまねき、これによって、人民の事業と社会主義の事業にあれこれの挫折と損失をもたらすことはあきらかです。

(六) 第二次世界大戦のあと、帝国主義と社会主義の力関係には根本的な変化がうまれました。この変化の目じるしのおもなものはつぎのとおりです。つまり、世界にはもはやただひとつの社会主義国しかないのではなく、一連の社会主義国がうまれて、強大な社会主義陣営を形づくったこと、社会主義の道へ歩みをすすめた人民は、もはや二億ちかくの人口にとどまらず、世界人口の三分の一をしめる一〇億の人口を擁していることがそれでありました。

社会主義陣営は国際プロレタリアートと勤労者の闘争の産物であります。社会主義陣営はたんに社会主義諸国の人民のものであるばかりでなく、それはまた国際プロレタリアートと勤労者のものでもあります。

社会主義陣営諸国の人民、国際プロレタリアートと勤労者、これらの人たちが社会主義陣営

諸国の共産党、労働者党にたいしてともに要求していることは、主としてつきのとおりであります。

マルクス・レーニン主義の路線を堅持して、マルクス・レーニン主義の正しい対内、対外政策を実行すること。

プロレタリアート独裁をうちかため、プロレタリアートの指導する労働同盟をうちかためて、経済戦線、政治戦線、思想戦線で社会主義革命を最後までやりぬくこと。

広はんな人民大衆の積極性と創意性を發揮して、計画的に社会主義建設をすすめ、生産を發展させ、人民の生活を改善し、国防を強化すること。

マルクス・レーニン主義を基礎とする社会主義陣営の団結をかため、プロレタリア国際主義を基礎とする社会主義諸国の相互の支持を実行すること。

帝国主義の侵略政策と戦争政策に反対し、世界の平和をまもること。

各国反動派の反共、反人民、反革命の政策に反対すること。

全世界の被抑圧階級と被抑圧民族の革命闘争を援助すること。

これらの要求を実現することは、社会主義陣営諸国の共産党、労働者党が自国の人民にたいしてはたすべき当然の義務であり、また、国際プロレタリアートと勤労者にたいしてはたすべき当

然の義務でもあります。

これらの要求を実現すれば、社会主義陣営は人類の歴史の進展にたいして決定的な影響をあたえることができます。

だからこそ、帝国主義と反動派は、あらゆる手をつくして社会主義陣営諸国の対内、対外政策に影響をあたえ、社会主義陣営を瓦解させ、社会主義国のあいだの団結、とくに中ソの団結をひきさこようとたくらんでいるのであります。かれらはつねに社会主義諸国への浸透と転覆をはかり、はては社会主義陣営をほろぼすことまで夢んでいます。

どのように正しく社会主義陣営に対処するかという問題は、各国の共産党、労働者党のまえに提起されたひじょうに重大なひとつの原則的問題であります。

15 各国の共産党、労働者党は、当面、あらたな歴史的条件のもとで、プロレタリア国際主義の団結と闘争をすすめています。世界にただひとつの社会主義国しか存在しなかつたとき、また、この国がマルクス・レーニン主義の正しい路線と政策をだんこ遂行したため、すべての帝国主義と反動派の敵視と危害にさらされていたとき、このときには、この唯一の社会主義国を断固まもるかどうか、それぞれの共産党のプロレタリア国際主義をためす試金石でした。こんにち、世界にはすでにアルバニア、ブルガリア、ハンガリー、ベトナム民主共和国、ドイツ民主共和国、中

国、朝鮮民主主義人民共和国、キューバ、モンゴル、ポーランド、ルーマニア、ソ連、チェコスロバキアの二三ヶ国からなる社会主義陣営があります。こうした状況のもとでは、社会主義陣営ぜんたいを断固まもるかどうか、この陣営を構成するすべての国のマルクス・レーニン主義にもとづく団結をまもるかどうか、社会主義国が実行せねばならぬマルクス・レーニン主義の路線と政策をまもるかどうか、これこそがそれぞれの共産党のプロレタリア国際主義をためす試金石となります。

もしある人がマルクス・レーニン主義の正しい路線と政策を実行せず、社会主義陣営の団結をまもらず、逆に社会主義陣営内部に緊張した状態をつくりだし、分裂をつくりだし、はてはユーゴスラビア修正主義者の政策に追隨して、社会主義陣営の解消を極力くわだて、あるいは資本主義諸国を援助して社会主義の兄弟諸国を攻撃するなら、それは国際プロレタリアートぜんたいと全世界人民の利益をうらぎることになります。

もしある人が他人のあとにつづき、社会主義国がとらねばならぬマルクス・レーニン主義の正しい路線と政策をまもるのではなく、あるひとつの社会主義国がとっている日和見主義の誤った路線と政策をまもるなら、また、団結の政策をまもるのではなく、分裂主義の政策をまもるなら、それはマルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義からはずれることになります。

(七) アメリカ帝国主義者は、第二次世界大戦後の条件を利用し、ドイツ、イタリア、日本のファシストにとつてかわり、全世界に空前の大帝国をつくらうとくわだてています。アメリカ帝国主義の戦略目標は、一貫して、つぎのようなものです。つまり、アメリカと社会主義陣営のあいだにある中間地帯を侵略し、支配し、被抑圧人民と被抑圧民族の革命をおしつぶし、さらにすすんで社会主義国をほろぼし、アメリカの同盟国をもふくむ全世界のすべての人民と国ぐにをみなアメリカ独占資本の隷属と支配のもとにおくというものです。

第二次世界大戦ののち、アメリカ帝国主義者は、一貫してソ連に反対し、社会主義陣営に反対する戦争宣伝をおこなっています。これには、二つの面がふくまれています。一方では、アメリカ帝国主義はたしかにソ連にたいする戦争、社会主義陣営にたいする戦争をおこなう準備をすすめています。もう一方では、アメリカ帝国主義はまたこの宣伝を煙幕として、自分が自国の人民を抑圧し、資本主義世界にむかつてその侵略勢力を拡張するをおおいかくしています。

一九六〇年の声明は、つぎのように指摘しています。

「アメリカ帝国主義は、最大の国際的搾取者となっている」

「今日の植民地主義の支柱——それはアメリカ合衆国である」

「侵略と戦争の主勢力は、アメリカ帝国主義である」

「最近数年間の国際的諸事件の経過は、アメリカ帝国主義が、世界反動の支柱であり、国際的憲兵であり、全世界の人民の敵であることをしめす多くの新しい証拠を提供している」

アメリカ帝国主義は全世界で侵略政策と戦争政策をおしすすめています。その結果は、かれらの根がいに反して、各国人民の目ざめをうながし、各国人民の革命をうながすだけではありません。

このように、アメリカ帝国主義は、自分じしんを全世界人民と対立する地位におき、自分を全世界人民の包囲のなかにおちいらせています。国際プロレタリアートは、結集できるすべての力を結集し、敵の内部の矛盾を利用し、アメリカ帝国主義とその手先に反対するもつとも広はんな統一戦線をうちたてねばなりません。また、それは可能であります。

各国人民の運命、人類の運命を世界のプロレタリアートの団結と闘争にゆだね、各国人民の団結と闘争にゆだねることは、現実的な正しい道であります。

これとは反対に、敵と味方と友を区別せず、各国人民の運命、人類の運命をアメリカ帝国主義との協力にゆだねることは、人びとを迷路にひきこむものであります。数年来の事実はずでにこした幻想の破産を証明しています。

(八) アジア、アフリカ、ラテンアメリカの広大な地域は、現代の世界のさまざまな矛盾の集

中した地域であり、帝国主義支配のもつとも弱い地域であり、いま帝国主義に直接の打撃をあたえている世界革命のあらしがふきすすんでいるおもな地域であります。

これらの地域の民族民主革命運動は、国際社会主義革命運動とともに、現代における二つの大きな歴史の潮流であります。

これらの地域の民族民主革命は、現代のプロレタリア世界革命の重要な構成部分であります。アジア、アフリカ、ラテンアメリカ人民の帝国主義に反対する革命闘争は、帝国主義と新旧植民地主義の支配の基礎に痛烈な打撃をあたえ、これを弱め、こんにち世界の平和をまもる強大な勢力となっています。

したがって、一定の意義からいって、国際プロレタリアートの革命事業ぜんたいは、とどのつまり、世界の人口の圧倒的多数をしめるこれら地域の人民の革命闘争いかにかかっています。したがって、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ人民の帝国主義に反対する革命闘争は、けつして地域的な問題ではなく、国際プロレタリアートの世界革命の事業ぜんたいにかかわる、全局的な問題であります。

げんざい、ある人は、こともあろうにアジア、アフリカ、ラテンアメリカ人民の帝国主義に反対する革命闘争の偉大な国際的意義を否定し、民族的、人種的、地理的な区別をうちやぶるなど

という口実をもうけて、被抑圧民族と抑圧民族、被抑圧国と抑圧国の区別を抹殺しようと極力たくらみ、これらの地域の人民の革命闘争をおさえつけようと極力たくらみ、実際には帝国主義の要求に迎合して、帝国主義がこれらの地域でその支配を維持し、新旧植民地主義の政策をおしすすめてゆくための新しい「理論」をつくり出しています。この種の「理論」は、けつして民族的、人種的、地理的な区別を真にうちやぶろうとするものではなく、いわゆる「優秀民族」の被抑圧民族にたいする支配を維持しようとするものです。こうした欺瞞的な「理論」がこれらの地域の人民からボイコットされるのは理の当然であります。

社会主義国とすべての資本主義国の労働者階級は、「万国のプロレタリア、団結せよ」「全世界のプロレタリアートと被抑圧民族、団結せよ」という戦闘的なスローガンを真に実現し、アジア、アフリカ、ラテンアメリカなどの地域の人民の革命経験について研究し、かれらの革命的な行動をだんこととして支持し、かれらの解放事業を自分にとたいするもつともたよりになる支援とみなし、自国の労働者階級の直接の利益とみなさなければなりません。こうしてこそはじめて、民族的、人種的、地理的な区別を真にうちやぶることができるのであり、これこそ真のプロレタリア国際主義なのであります。

被抑圧民族との団結がなく、被抑圧民族の解放がなくては、欧米資本主義諸国の労働者階級は

自分の解放をかちとることができません。レーニンは、「ヨーロッパとアメリカの資本に抑圧されている何億という『植民地』奴隷をも、この資本にたいする労働者の闘争のなかで、完全に、もつともきんみつに統合しないならば、先進国の革命運動は、事実上まったくの欺瞞となるであろう」とのべていますが、まことにそのとおりであります。

げんざい、国際共産主義の隊列のなかには、こともあろうに被抑圧民族の解放闘争にたいして、消極的な、これを軽べつし、否定する態度をとるものまで出ていますが、それは事実上、独占ブルジョアジーの利益をかばい、プロレタリアートの利益をうらざり、自分を社会民主主義者にまで墮落させるものにほかなりません。

アジア、アフリカ、ラテンアメリカ各国人民の革命闘争にたいしてどんな態度をとるかということは、革命と非革命を区別する重要な目じるしであり、ほんとうに世界の平和を守っているのは誰か、侵略勢力と戦争勢力を助長しているのは誰かを区別する重要な目じるしであります。

(九) アジア、アフリカ、ラテンアメリカの被抑圧民族と被抑圧人民は、帝国主義とその手先に反対するというさしせまつた任務に直面しています。

歴史は、これらの地域のプロレタリア政党に光栄ある使命をあたえています。それは、帝国主義に反対し、新旧植民地主義に反対し、民族独立をかちとり、人民民主主義をかちとる旗をたか



くかかげて、民族民主革命運動の最前列にたち、社会主義の前途をたたかひとることでありま  
す。

これらの地域で帝国主義の隷属をうけることをのぞまない人びとはきわめて広はんにわたつて  
おり、労働者、農民、知識人、小ブルジョアジーばかりでなく、愛国的な民族ブルジョアジーを  
もふくみ、さらにはいちぶの愛国的な王公貴族までふくんでいます。

プロレタリアートとその政党は人民大衆の力を信じなければならず、おもに農民と団結して、  
強固な労働同盟をうちたてなければなりません。プロレタリアートの先進的な人びとが農村のな  
かで活動し、農民をたすけて組織させ、その階級的な自覚と民族の自尊心、確信をつよめること  
は、もつとも重要な意義をもっています。

プロレタリアートとその政党は、労働同盟の基礎のうえに、結集できるすべての階層を結集し  
て、帝国主義とその手先に反対する広はんな統一戦線をつくらなければなりません。この統一戦  
線を強め、発展させるには、プロレタリアア政党が思想上、政治上、組織上で独自性をたもち、革  
命の指導権を堅持することが必要です。

プロレタリアア政党と革命的人民は、武力闘争の形態をふくむままの闘争形態を学びとる必  
要があります。帝国主義とその手先が武力弾圧をくわえてくる状況のもとでは、革命の武装力に

よつて反革命の武装力をうちやぶらなければなりません。

あらたに政治上の独立を獲得した一連の民族主義諸国は、いまなお政治上の独立をうちかた  
め、帝国主義勢力と国内反動派を一掃し、土地改革とその他の社会改革を實行し、民族の経済と  
文化を発展させるといふなみなならぬ任務に直面しています。これらの国々にとっては、ふ  
るい植民地主義者が新植民地主義の政策をとつてその利益を保持することを警戒し、これに反対  
すること、とりわけアメリカの新植民地主義を警戒し、これに反対することが重要な現実的な意  
義をもっています。

あらたに独立したいちぶの国々にの愛国的な民族ブルジョアジーは、ひきつづき人民大衆とと  
もに帝国主義と植民地主義に反対する闘争をすすめており、また社会の進歩に役だつ若干の措置  
をとつています。ここでは、プロレタリアア政党は愛国的な民族ブルジョアジーの進歩的な役割を  
じゅうぶんに評価して、かれらとの団結を強めることが要求されます。

あらたに独立したいちぶの国々にのブルジョアジー、とりわけ大ブルジョアジーは、国内の社  
会矛盾と国際的な階級闘争が尖鋭化するにつれて、ますます帝国主義に身をよせ、反人民、反  
共、反革命の政策を實行しています。ここでは、プロレタリアア政党はこのような反動政策にだん  
こととして反対することが要求されます。

一般的にいえば、これらの国ぐにのブルジョアジーは二面性をもっています。プロレタリア政  
党は、ブルジョアジーと統一戦線をうちたてるにあたって、團結もすれば闘争もするという政策  
を實行しなければなりません。つまり、ブルジョアジーの反帝反封建の進歩的な傾向にたいして  
は團結の政策を實行し、その帝國主義、封建勢力と妥協し結託する反動的な傾向にたいしては闘  
争の政策を實行するのであります。

民族問題では、プロレタリア政党的世界観は國際主義であつて、民族主義ではありません。革  
命闘争のなかで、プロレタリア政党的進歩的な民族主義を支持し、反動的な民族主義に反対しま  
す。いかなるばあいにも、プロレタリア政党的ブルジョア民族主義との違いをはつきりさせ、そ  
のとりこになつてはなりません。

一九六〇年の声明は、「共產主義者は、ブルジョアジーの反動分子が利己心にみちたブルジョ  
アジーだけの狭い利益を全民族の利益といいくるめるたくらみを暴露し、これと同じ目的でブル  
ジョア政治家が社会主義的スローガンを欺瞞的に利用していることを暴露し」なければならぬ  
とのべています。

もしもプロレタリアートが革命のなかで地主、ブルジョアジーに追隨するなら、民族民主革命  
は真の徹底した勝利をかちとることは不可能であり、たとえなんらかの勝利をかちとつたとして

も、強固なものにすることは不可能であります。

被抑圧民族と被抑圧人民の革命闘争の過程で、プロレタリア政党的は、徹底的に帝國主義に反対  
し、国内反動派に反対し、民族の独立をかちとり、人民民主主義をかちとる綱領を独自でうちだ  
し、独自で大衆工作をおすすすめ、たえず進歩勢力を拡大し、中間勢力を獲得し、反動勢力を孤  
立させることによつて、はじめて民族民主革命を最後までおすすすめ、また革命を社会主義の軌  
道へみちびくことができるのであります。

(一〇) 帝國主義国のなかで、資本主義国のなかで、資本主義社会の矛盾を徹底的に解決す  
るには、プロレタリア革命とプロレタリアート独裁を實現しなければなりません。

この任務の實現をかちとる過程では、いまの条件のもとで、プロレタリア政党的は労働者階級と  
その他の勤労者を積極的に指導して、独占資本に反対する闘争、民主的権利をまもる闘争、ファ  
ッショの危険に反対する闘争、生活の向上をめざす闘争、帝國主義の軍備拡張と戦争準備に反対  
し、世界の平和を守る闘争をおすすすめ、被抑圧民族の革命闘争を積極的に支持しなければなり  
ません。

アメリカ帝國主義が現に支配し、あるいは支配しようとするくらんでいる資本主義国では、労働  
者階級と人民大衆のおもな打撃はアメリカ帝國主義にむけられ、また、民族の利益を売りわたす

独占ブルジョアジーと国内のその他の反動勢力にもむけられています。

ここ数年らしい、資本主義国におきた大規模のさまざまな大衆闘争は、これらの国ぐにの労働者階級とその他の勤労者があらたに目ざめつつあることをはっきりと示しています。かれらの闘争は、独占資本と反動勢力に打撃をあたえており、自国の革命事業にかがやかしい見通しをひらいたばかりでなく、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ各国人民の革命闘争に力づよい支持をあたえ、社会主義陣営諸国にも力づよい支持をあたえています。

帝国主義国、資本主義国では、プロレタリア政党は革命闘争を指導するにあたって、思想上、政治上、組織上で自己の独自性をたもたなければなりません。同時に、結集できるすべての勢力を結集して、独占資本に反対し、帝国主義の侵略政策と戦争政策に反対する広はんな統一戦線をうちたてなければなりません。

資本主義国の共産主義者は、当面の闘争を積極的に指導するにあたって、これらの闘争を長期の全局的な利益のための闘争と結びつけなければなりませんし、マルクス・レーニン主義の革命精神で大衆を教育し、大衆の自覚をたえずたかめて、プロレタリア革命の歴史的な任務をになわなければなりません。もしもそうしないで、目先の運動をすべてとみなし、その場あたりでことを処理し、目先の事件に順応し、プロレタリアートの根本の利益を犠牲にするなら、これこそ正

真正銘の社会民主主義であります。

社会民主主義は、一種のブルジョア思潮であります。レーニンが早くから指摘しているとおり、社会民主主義的政党はブルジョアジーの政治的部隊であり、労働運動のなかでのブルジョアジーの代理人であり、ブルジョアジーのおもな社会的支柱であります。いかなるばいにも、共産主義者はプロレタリア革命とプロレタリアート独裁の基本問題について社会民主主義的政党との境界線をはつきりさせ、国際労働運動のなか、各国の労働者大衆のなかで社会民主主義的思想的な影響を一扫しなければなりません。共産主義者は、社会民主主義的政党の影響のもとにある大衆を獲得すべきであり、社会民主主義的政党のなかで自国の独占資本と外国帝国主義の支配に反対することをのぞむ左翼的な人びとや中間的な人びとを獲得し、労働運動の日常の闘争や世界平和をまもる闘争でかれらとの広はんな共同行動を実現すべきであることは言うまでもありません。

マルクス・レーニン主義的政党は、プロレタリアートとその他の勤労者を指導して革命をおこなうためには、あらゆる闘争形態をよく把握し、また闘争情勢の変化にもとづいてある闘争形態から他の闘争形態へと迅速にきりかえることに長じていなければなりません。プロレタリアートの前衛は、平和的と武力的、公然的と非公然的、合法的と非合法的、議会的と大衆的といった、あ

らゆる闘争形態をよく把握してこそはじめて、いかなる事態のもとでも不敗の立場にたつことができるのです。議会闘争その他の合法的な闘争形態を利用しなければならぬとき、またはそうした可能性があるときに、これを利用することをこぼむのは誤りです。しかし、もしも議会きちがいや合法主義者になってしまい、闘争をブルジョアジーのゆるす範囲にかぎるなら、どうしてもプロレタリア革命とプロレタリアート独裁を解消することになるでしょう。

(二) プロレタリア政党は、資本主義から社会主義へ移行する問題にたいしては、かならず階級闘争の観点から出発しなければならず、革命の観点から出発しなければならず、また、マルクス・レーニン主義のプロレタリア革命とプロレタリアート独裁についての学説をよりどころにしなければなりません。

共産主義者は、ゆらい、平和な方法で社会主義へ移行したいと思っっているのです。けれども、平和移行を国際共産主義運動の新しい世界的な戦略原則とすることができようか。それは絶対にできません。

マルクス・レーニン主義は、すべての革命の根本問題は国家権力の問題であると、一貫して考えています。一九五七年の宣言と一九六〇年の声明は、「レーニン主義が教えているように、また歴史の経験が証明しているように、支配階級は、みずからすすんで権力をゆずりわたすもので

はない」とはつきり指摘しています。どのような旧来の政府も、もしそれを押し倒さないなら、たとえ危機の時代でも倒れるものではありません。これが階級闘争の普遍的な法則です。

マルクスとレーニンは、一定の歴史的な条件のもとで、革命の平和的な発展の可能性を提起したことがあります。しかし、レーニンのいつているように、革命の平和的な発展の機会は「革命の歴史上きわめてまれにみる機会」なのです。

じじつ今日までのところ、世界の歴史上、資本主義から社会主義へ平和的に移行した前例はほとんどありません。

マルクスが社会主義は資本主義にかならずとつてかわると予言したときには、その前例がなかったのだ、それなら、また前例がないという条件のもとで、資本主義は平和的に社会主義へ移行できると予言してなぜいけないのか、ある人はこう言っています。

これは、まったくデタラメなたとえです。マルクスは、弁証法的唯物論と史的唯物論によつて資本主義社会の矛盾を分析し、人類社会発展の客観法則を発見して、科学的な結論をひき出しました。ところが、「平和移行」にすべてののぞみをかけるいちぶの予言者たちは、史的観念論から出発して、資本主義社会のもつとも根本的な矛盾を抹殺し、マルクス・レーニン主義の階級闘争の学説にそむいて、なんら根拠のない主観的な臆測にもとづく判断をくだしています。マル

クス主義にそむくものがどうしてマルクスから援助をうることができるでしょうか。

いま、みなが目にしていっているとおり、資本主義国はすべてその国家機構、とくに軍事機構をつよめていますが、その目的は第一に自国民を弾圧することにあります。

プロレタリア政党は、自分たちの思想や革命の方針、すべての活動を、帝国主義と反動派が平和的改革をうけいれるだろうという見とおしのないにきずきあげることが絶対できません。

プロレタリア政党は二つの手法を準備しておかねばなりません。つまり、革命の平和的な発展を準備するとともに、革命の平和的でない発展にたいしてかならず十分な準備をしておかねばなりません。プロレタリア政党は、そのおもな注意力を艱難にたえて革命的な力をたくわえることにそそぎ、条件が熟したときに革命の勝利を奪いとるか、または帝国主義と反動派が奇襲攻撃や武力攻撃をくわえてきたときに有力な反撃をくわえるよう準備をしておかねばなりません。

もしこのような準備をしないなら、プロレタリアートの革命的意志をマヒさせ、思想上ではじぶんの武装を解除し、政治上、組織上ではまったく無準備な受け身の体勢におちいってしまい、ついにプロレタリアートの革命事業をほうむりさつてしまうことになるでしょう。

(二二) 人類の歴史上、ことなつた段階でのさまざまな社会革命はすべて歴史の必然的な産物

であり、人びとの意志によつては左右されない客観法則であります。歴史が証明しているように、これまでなんらかのまがりくねつた道もたどらず、いくらかの犠牲もはらわずに勝利をかちとつた革命はひとつもありませんでした。

プロレタリア政党の任務は、マルクス・レーニン主義の理論にもとづいて、具体的な歴史条件を分析し、正しい戦略と戦術を提起し、人民大衆を指導して暗礁をよけ、必要ないくらかの犠牲をさけ、段どりを追つて自分の目的をとげることにあります。では、犠牲を完全にさけることができるでしょうか。奴隸革命、農奴革命、ブルジョア革命、民族革命はすべてそうではなかつたし、プロレタリア革命もそうではありません。たとえ革命の指導路線が正しくても、革命がなんらかの挫折もこうむらないよう完全に保証することはできませんし、またいくらかの犠牲もはらわないよう完全に保証することもできません。正しい路線さえ堅持するなら、革命は最後にはかならず勝利するものであります。犠牲をさけるという口実で革命を解消するなら、それはほかでもなく、人民を永久に奴隸にし、かぎりない苦痛と犠牲を永久にたえしのばせるほかありません。

マルクス・レーニン主義の常識は、革命によつて引きおこされる陣痛がふるい社会の慢性的な苦しみよりもはるかに軽いことをわれわれに教えています。また、レーニンは、資本主義制度の

もとは「事態がこのうえなく平穩にはこんでいるときさえ、つねにまた不可避免的に数知れない犠牲を労働者階級に負わせる」と正しくも教えています。

もしも革命がすべて順調にはこび、犠牲も失敗もこうむらないという手形をあらかじめとりつけたときにはじめて革命をおこなえると考える人があるなら、その人はまったく革命家ではありません。

どのような困難な条件のもとでも、また革命がどのような犠牲と失敗をこうむるとしても、プロレタリアートの革命家はすべて革命的な精神で大衆を教育し、かならず革命の旗をまもりぬべきであつて、それをすてさつてはなりません。

客観的な条件がまだ熟さないときにプロレタリア政党が軽がるしく革命をおこすとすれば、それは極左冒険主義であります。客観的な条件が熟しているときにプロレタリア政党が大胆に革命を指導せず、大胆に権力をうばいとらなないとすれば、それは右翼日和見主義であります。

プロレタリア政党は、たとえつね日ごろ、大衆を指導して日常闘争をすすめるときにも、自分たちの隊列と人民大衆のなかで革命の思想上、政治上、組織上の準備をおこない、革命闘争の発展をうながすことによつて、いったん革命の条件が熟したとき、時機を失せず反動支配をくつがえし、あたらしい権力をうちたてるようにしなければなりません。さもなければ、客観的な条件

が熟していても、革命の勝利をかちとる時機をみすみす失うことになります。

プロレタリア政党は、高い原則性を堅持するとともに、融通性をもそなえていなければならず、ときには革命にとつて有利な、必要な妥協もしなければなりません。しかし、融通性と必要な妥協を口実にして、原則的な政策と革命の目的を根本的に放棄することはできません。

プロレタリア政党は、人民大衆を指導して敵とたたかうとともに、敵の矛盾を利用することに長じていなければなりません。しかし、敵の矛盾を利用するのは、人民の革命闘争の目的をうげやすくするためであつて、人民の革命闘争を解消しようとするものではありません。

無数の事実が立証しているように、帝国主義と反動派の暗黒支配があるところには、人口の九〇パーセント以上をしめる人民がおそかれ早かれ革命にたちあがるものです。

もし共産主義者が人民大衆の革命的要求からはなれるなら、かれらは必然的に人民大衆の信頼をうしない、革命の流れの後方にほうり出されてしまうことでしょう。

もし、党の指導グループが革命をしない路線をとり、党を改良主義的な政党に変えるなら、党内外のマルクス・レーニン主義者が革命のなかでかれらの地位にとつてかわり、人民を指導して革命をすすめるようになるでしょう。また別の状況のもとでは、ブルジョアジーの革命派がたちあがつて革命の指導にあたるようになり、プロレタリア政党は革命の指導権をうしなつてしまふ

でしょう。反動的なブルジョアジーが革命をうらざり、人民を弾圧したばあい、日和見主義の路線は、共産主義者と革命的大衆にもとと払うべきでないいたましい犠牲をはらわせることになるでしょう。

もし共産主義者が日和見主義の道にずるとおちこんでいくなら、かれらはブルジョア民族主義者に墮落してしまい、帝国主義と反動ブルジョアジーの下僕になってしまうでしょう。

げんざい、レーニンのあとをついで革命理論に最大の創造的貢献をしたと自称している人たちが、自分だけが正しいと自称している人たちは、世界の共産主義運動ぜんたいの全面的な経験を真に考慮したことがあるでしょうか。かれらは国際プロレタリアートの運動ぜんたいの利益、目標、任務に真に注意をはらっているでしょうか。かれらは、マルクス・レーニン主義に真に合致した国際共産主義運動の総路線をもっているでしょうか。これらはみな非常に疑わしいことです。

ここ数年らい、国際共産主義運動と民族解放運動はたいへん多くの経験や教訓をつまみました。なかには人びとにたたえられるべき経験もあれば、人びとを悲しませる経験もあります。各国の共産主義者と各国の革命的人民は、これらの成功の経験と失敗の経験をまじめに考え、検討し、そのなかから正しい結論をみちびき出し、有益な教訓をくみとる必要があります。

(一三) 社会主義国と全世界の被抑圧人民、被抑圧民族の革命闘争は、たがいに支持し、援助しあうものであります。

アジア、アフリカ、ラテンアメリカの民族解放運動と資本主義諸国の人民の革命運動は、社会主義国にたいする力づよい支援であります。これを否定することは、まったく誤りです。

社会主義国は、被抑圧人民と被抑圧民族の革命闘争にたいし、心から共鳴し、積極的に支持する態度をとりうるだけであつて、おざなりの態度や民族の利己的な態度、大國排外主義の態度は絶対にとるべきではありません。

レーニンは、「先進諸国の革命家およびすべての被抑圧人民と同盟をむすび、あらゆる帝国主義者に反対すること——これこそプロレタリアートの対外政策である」といっています。この点を理解しないで被抑圧人民や被抑圧民族にたいする社会主義国の支援を一種の負担とみなしたり、一種の恩恵とみなしたりするものは、すべてマルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義にそむくものであります。

社会主義制度の優越性と社会主義国の建設の成果は、被抑圧人民と被抑圧民族にとって模範と激励の役割をはたしています。

しかし、こうした模範と激励の役割は被抑圧人民と被抑圧民族の革命闘争にとつてかわること

が絶対にできません。すべての被抑圧人民と被抑圧民族は自分の断固たる革命闘争にたよつてのみ、はじめて解放を勝ちとることができるのです。

ある人びとは社会主義国と帝国主義国の平和競争の役割を一方的に誇張し、平和競争を被抑圧人民と被抑圧民族の革命闘争にとつてかわらせようとしています。かれらの説教によれば、まるで帝国主義はこのような平和競争のなかで自然に崩壊し、すべての被抑圧人民と被抑圧民族はただしずかにこの日がくるのを待ちさえすればよいかのようであります。このこととマルクス・レーニン主義の観点とのあいだにはどのような共通点があるでしょうか。

ある人びとは、奇怪きわまる珍説をつくりだし、中国と一部の社会主義国は「戦争をひきおこそう」としているとか、「国と国のあいだの戦争」をつうじて社会主義をおすすめしようとしているとかと言っています。この奇怪きわまる珍説は、一九六〇年の声明がいつているとおり、帝国主義反動派がでつちあげた中傷にすぎません。これらの人がこうした中傷をくりかえしているのは、あからさまに言えば、かれら自身が全世界の被抑圧人民と被抑圧民族の革命に反対しているのをおおいかくし、他の人がこの革命を支持することに反対するためにはかぎりません。

(一四) ここ数年らしい、戦争と平和の問題については、すでにすくなくからずのべてきましたし、もはや十分なほどのべてきました。戦争と平和の問題についてのわれわれの観点と政策は、全世

界の人びとがみな知っているとおりであつて、なにびともゆがめることのできないものです。

残念ながら、国際共産主義運動のなかで、あるいちぶの人たちは、自分がいかに平和を愛し、いかに戦争をにくんでいるかをのべたてはするけれども、戦争の問題についてのレーニンの簡單明瞭な真理をすこしも理解しようとはしていません。

レーニンは、「戦争の問題について、人びとがしばしば忘れたり、注意がたりなかつたり、あるいは、中味のからつばな無意味ともいうべき多くの論争をひきおこしたりしているのは、おもにつきのような基本的な問題であると、わたしは考える。すなわち、それは、その戦争がどのような階級性をもっているのか、それがなにによつてひきおこされたのか、それがどの階級によつておこなわれているのか、またそれがどのような歴史的條件と歴史的経済條件によつてもたらされたのかという問題である」とのべています。

マルクス・レーニン主義者の見るところによれば、戦争は別の手段による政治の継続であつて、どのような戦争も、それをうみだした政治制度や政治闘争からきり離せないものです。世界の階級闘争の歴史ぜんたいによつて立証されたこのマルクス・レーニン主義の科学的論点をはなれては、永遠に戦争の問題を理解することができず、また平和の問題を理解することもできません。いろいろな平和がありますし、いろいろな戦争があります。マルクス・レーニン主義者はそれ



がどのような平和か、どのような戦争かをはっきりさせなければなりません。正義の戦争と正義でない戦争を区別せずにまぜこぜに論じたり、一律に反対したりするのは、ブルジョア平和主義の観点であつて、マルクス・レーニン主義の観点ではありません。

ある人は、戦争がなくても、革命はまったく可能である、と言っています。これは、いつたいどのような戦争をさすのでしょうか。民族解放戦争と国内革命戦争でしょうか、それとも世界戦争でしょうか。

もし民族解放戦争と国内革命戦争をさすのであれば、このようないい方は、事実上、革命戦争に反対することであり、とりもなおさず革命に反対することでもあります。

もし世界戦争をさすのであれば、それはあきらかに的なくして矢を射るものであります。マルクス・レーニン主義者はたしかに二回にわたる世界大戦の歴史にもとづいて、世界戦争は不可避免的に革命をひきおこすというこの事実を説明しました。けれども、世界戦争をへなければ革命は不可能だなどと主張したマルクス・レーニン主義者はひとりもありませんし、こんごもそうした主張をすることは永遠にないでしょう。

マルクス・レーニン主義者は戦争を絶滅することを自分たちの理想としており、また、戦争を絶滅することができると思っています。

だが、どのようにすれば戦争を絶滅することができるのでしょうか。

レーニンはこのようにみています。「われわれの目的は、社会主義制度をうちたて、人類を諸階級に区分したり、人が人を搾取したり、ある民族が他の民族を搾取したりする現象をなくすことによつて戦争が根本的におこらないようにすることである」と。

一九六〇年の声明もひじょうにはつきりとのべています。「全世界における社会主義の勝利は、あらゆる戦争のおこる社会的、民族的原因を最後のにとりのぞくだろう」と。

げんざい、ある人は、こともあろうに、帝国主義制度と人が人を搾取する制度がまだ存在している条件のもとでも、「全面的な完全軍縮」をつうじて、「武器もなく、軍隊もなく、戦争もない世界」を実現することができると考えています。これはまったく現実にあわない幻想です。

マルクス・レーニン主義の常識がわれわれに押し合っているとおり、軍隊は国家機構の主要な部分であつて、武器もなく、軍隊もない世界などというものは、国家のない世界がいかにありません。レーニンは、「プロレタリアートは、ブルジョアジーを武装解除したのちにはじめて、じぶんの世界史的任務をうらぎらず、すべての武器を廃棄することができる。プロレタリアートは疑いもなくそうすることができる、だが、このときにはじめてそうすることができるのであつて、このとき以前では決してない」といつています。

また世界の現実は何のような状態にあるでしょうか。アメリカを頭とするすべての帝国主義国は、いつたどこに、全面的な完全軍縮を実施するそぶりをすこしでも見せているでしょうか。かれらは例外なく全面的な完全軍備拡張をおこなっているではありませんか。

帝国主義の軍備拡張、戦争準備を暴露し、これに反対するためには、全般軍縮の主張を提起することが必要であると、われわれは一貫してきました。社会主義陣営諸国と全世界人民の連合闘争をつうじて、帝国主義にある種の軍縮協定をうけいれさせることは可能であります。

もし全面的な完全軍縮を世界平和をめざすもつとも根本的な道とみなし、帝国主義がみずからすすんで武器をすてるという幻想をまきちらし、軍縮を口実にして被抑圧人民と被抑圧民族の革命闘争を解消しようとするなら、それは、意識的に世界人民をあざむき、帝国主義の侵略政策と戦争政策のために犬馬の労をとる以外のなにもでもありません。

いま国際労働運動のなかにある、戦争と平和の問題についての思想的混乱を克服するために、われわれは、現代修正主義者によつてすすべられたレーニンの論点を回復させて、帝国主義の侵略政策と戦争政策に反対し、世界の平和をまもる闘争を有利にする必要が大いにあります。

あらたな世界戦争を防ぎとめることは、世界人民の普遍的な要求であります。あらたな世界戦

争を防ぎとめることは可能であります。

現在の問題は、世界平和をたたかいたる道はいつたいなにかということ。レーニン主義の観点からみれば、世界の平和は世界各国の人民がたたかいたるのみかちとりうるものであつて、帝国主義に乞ひもとめてえられるものではありません。社会主義陣営の勢力の発展にたより、各国のプロレタリアートと勤労者の革命闘争にたより、被抑圧民族の解放闘争にたより、すべての平和を愛する人民と国家の闘争にたよるのでなければ、世界平和を力づくよくまもりぬくことはできません。

レーニン主義の政策は、まさにこのようなものです。これに反した政策では、世界を平和へみちびくことは決してできません、ただ帝国主義者の野心を助長させ、世界戦争の危険性を大きくするだけあります。

近年、ある人たちは、民族解放戦争と人民革命戦争の一点の火花も人類をかい滅させる世界大戦をまねくなどという論調をばらまいています。じじつは、どうでしょうか。それとは正反対に、第二次世界大戦ののち発生した多くの民族解放戦争と人民革命戦争は決して世界大戦をまねきませんでした。これらの革命戦争の勝利は、直接、帝国主義の力をよわめ、また、帝国主義による世界大戦の火つけをくいとめ、世界の平和をまもる勢力を大いにつよめたのであります。事

実は、さきの論調がまったくのデタラメであることを証明してはおりませんか。

(一五) 核兵器を全面的に禁止し、完全に廃棄することは、世界平和をまもる闘争のなかでの重要な任務であります。われわれはこのために最大の努力をはらわねばなりません。

核兵器は空前の破壊力をもっています。だから、アメリカ帝国主義者は十数年らしい核恐喝政策をとり、これによつて全世界の人民を隷属させ、世界を制覇する野望を実現しようとしてくわだててきました。

しかし、帝国主義者が核兵器で他国に脅威をあたえれば、自国の人民にも脅威をうけさせることになり、自国の人民を核兵器反対、帝国主義の侵略政策と戦争政策反対にたちあがらせることになります。それと同時に、帝国主義者は核兵器で相手方を破壊させようとすれば、実際には自分が破壊される側にたたされてしまいます。

核兵器禁止の可能性は存在しています。帝国主義者が核兵器禁止の協定をうけいれざるをえなくなつたとしても、それは決してかれらの人類にたいする「博愛」からでたものでなく、世界各国人民の圧力とかれら自身の利害関係からでたものにすぎません。

帝国主義者と反対に、社会主義国が依拠しているのは、人民の正義の力であり、自分の正しい政策であります。社会主義国は世界において核兵器を賭博としてもあそぶ必要は全くありません。

43

ん。社会主義国が核兵器をにぎっているのは完全に防衛の目的のためであり、帝国主義が核戦争をおこすのをくいとめるためであります。

マルクス・レーニン主義者からみれば、人民は歴史の創造者です。歴史の発展のうえでも、現実の生活のなかでも、人間は決定的な要因です。マルクス・レーニン主義者は技術改革の役割を重視していますが、しかし、もしも人間の要因の役割を見くびり、技術の要因の役割を買いかぶるなら、それは誤りです。

核兵器があらわれても、人類の歴史の前進をはばむことはできませんし、帝国主義制度を滅亡から救うこともできません。それはちょうど歴史上あたらしい技術があらわれても、すべてさまざまのふるい制度を滅亡から救うことができなかつたのと同様です。

核兵器があらわれたことによつて、現代世界のいろいろな基本矛盾はなにも解決されておらず、また、解決できるものでもありません。階級闘争の法則は決しておらず、また、かえることができるものでもありません。帝国主義とすべての反動勢力の本質は決しておらず、また、かえることができるものでもありません。

だから、核兵器があらわれたからといって、社会革命や民族革命の可能性と必要性はすでになくなつたとか、マルクス・レーニン主義の基本的な原理、とりわけプロレタリア革命とプロレタ

リアート独裁についての原理や戦争と平和についての原理はすでに時代おくれになったとか、古くさい「教条」になったとか言うことはできないのであります。

(二六) 社会主義国が資本主義国と平和的に共存できるということは、レーニンが提起したものです。周知のとおり、偉大なソ連人民が外国の武力干渉を撃退したあと、ソ連共産党とソビエト政府は、レーニンにみちびかれ、そのごまたスターリンにみちびかれながら、こうした平和共存の政策を一貫して遂行してきたのであつて、ドイツ帝国主義者が攻撃をおこなったときにはじめて、やむなく自衛の戦争をすすめたのであります。

中華人民共和国も成立の一貫して、社会制度のことなる国ぐにと平和的に共存する政策をだんこ遂行してきましたし、また、平和共存の五原則の提唱者であります。

ところが、数年らい、いちぶの人は、レーニンが提起した平和共存の政策をにわかによつて「偉大な発見」にしてしまい、この政策の解釈について独占権をもっていると思ひこむようになりまして。かれらは、「平和共存」を森羅万象を網羅する不可思議な神書とみており、世界各国人民のたたかひのすべての成果、すべての功績がみなこの神書に記載されているとみています。かれらはまた、自分たちがこのようにレーニンの意見を歪曲することに同意しないすべての人びとをさして、平和共存の反対者および、レーニンとレーニン主義について何も知っていない

といい、大道無道の異教徒だと言っています。

中国の共産主義者は、このような観点ややりかたにどうして同意できるでしょうか。いいえ、それはできません。

レーニンの平和共存に関する原則は、非常にはつきりしており、ふつうの人にもたやすく理解できるものです。平和共存は、社会制度のことなる国ぐにのあいだの関係をさしているものであつて、これに勝手きままな解釈をくわえることはできません。いかなるばあいにも、平和共存を被抑圧民族と抑圧民族の關係、被抑圧国と抑圧国の關係、被抑圧階級と抑圧階級の關係の面におしひろげではならず、平和共存を資本主義から社会主義への移行のおもな内容といふべきではありません。まして平和共存を全人類が社会主義へむかう道だなどはなおさら言うべきではありません。なぜなら、社会制度のことなる国のあるで平和共存を實行することは、これはひとつのことからです。平和共存は、共存している相手国の社会制度に指一本もふれることは根本的に許されず、また、それはまったく不可能なことです。他方、各国における階級闘争、民族解放闘争、

資本主義から社会主義への移行は、これはまた別のことがらです。これらのたたかひはみな、社会制度を変えるための、激烈な、食うか食われるかの革命闘争です。平和共存は各国人民の革命闘争にとつてかわることが絶対にできません。いかなる国も、資本主義から社会主義への移行

は、自国のプロレタリア革命とプロレタリアート独裁をつうずるはかないのであります。

平和共存の政策を遂行する過程では、社会主義国と帝国主義国のあいだに政治、経済、イデオロギーなどの面でたかいたが不可避的に存在するのであつて、「全面的な協力」などということとは絶対に不可能であります。

社会主義国と帝国主義国があれこれの会談をおこなうことは、必要なことです。社会主義国の正しい政策と各国の人民大衆の圧力にたよれば、会談によつてなんらかの協定をむすぶことができます。社会主義国と帝国主義国のあいだのなんらかの必要な妥協は、被抑圧人民と被抑圧民族がこれにともなつて帝国主義とその手先に妥協することを要求するものでは決してありません。いかなるばあいも、平和共存の名によつて、被抑圧人民と被抑圧民族に自分の革命闘争を放棄するよう要求することは誰もできないのであります。

社会主義国が平和共存の政策を実行することは、社会主義建設の平和な国際環境をかちとるうえで有利であり、帝国主義の侵略政策と戦争政策をバクロするうえで有利であり、帝国主義の侵略と戦争の勢力を孤立させるうえで有利であります。けれども、もし社会主義国の対外政策の総路線を平和共存にかざるなら、社会主義国相互の関係を正しく処理することができます、社会主義国と被抑圧人民、被抑圧民族のあいだの関係を正しく処理することもできません。したがつて、

平和共存を社会主義国の対外政策の総路線とするのはあやまつています。

われわれの考えによると、社会主義国の対外政策の総路線にはつぎのような内容がふくまれねばなりません。つまり、プロレタリア国際主義の原則にもとづいて、社会主義陣営諸国のあいだの友好相互援助協力関係を発展させること、五原則を基礎として社会制度のことなる国々にとの平和共存をかちとり、帝国主義の侵略政策と戦争政策に反対すること、すべての被抑圧人民と被抑圧民族の革命闘争を支援することがそれです。この三つの内容は、たがいに関連した、切り離すことのできない、どれひとつとして欠くことのできないものであります。

(一七) プロレタリアートが権力をかちとつたあとの非常に長い歴史的時期において、階級闘争が継続することは、依然として人びとの意志で左右されない客観法則です。ただ、階級闘争の形態がプロレタリアートの権力獲得まえと異なるにすぎません。

十月革命のあと、レーニンはいくどもつぎのように指摘しています。

1 打倒された搾取者は、つねにあらゆる手をつくして、奪いさられた「天国」を復活させようとするものである。

2 小ブルジョアジーの自然発生的な勢力は、たえず新しい資本主義分子をうみ出す。

3 ブルジョアジーの影響と、小ブルジョアジーの自然発生的な勢力の包囲と腐蝕の作用によ

つて、労働者階級の隊列のなかや国家機構の職員のなかにも墮落変質した分子や新しいブルジョア分子がうまれうる。

4 国際資本主義の包囲と帝国主義の武力干渉の脅威および平和的瓦解の陰謀活動は、社会主義国のなかで階級闘争がひきつづき存在する外部的な条件である。

レーニンの以上の断定の正しさは、実際の生活がこれを証明しています。

いかなる社会主義国にせよ、社会主義的工業化と農業集団化が実現してから数十年、さらにはもつと長い時間をへたのちでも、そこにはレーニンがたびたび痛烈に非難したようなブルジョア政客、寄生虫、投機分子、ペテン師、なまげ者、ごろつき、国家財産の窃盗犯といった連中がまつたかなくなつたといふことはできませんし、また社会主義国にはもはや、レーニンの提起した「資本主義から社会主義に残されたこの伝染病、疫病、潰瘍を一扫する」という任務はもう必要でなくなつたとか、放棄してもよいとかいふこともできません。

社会主義国で、社会主義と資本主義のどちらがどちらに勝つかという問題は、ひじょうに長い歴史の時期をへてはじめて一步一步と解決できるものです。社会主義と資本主義の二つの道のたかいは、この歴史の時期ぜんたいをつらぬいています。こうしたたかいは起伏があつて、波状的であり、ときには非常にはげしい形をとることさえあります。たかいは多種多様で

す。

一九五七年の宣言は、「労働者階級にとつては権力の獲得は革命のはじまりにすぎず、革命の完成ではない」とのべていますが、まったくそのとおりであります。

プロレタリアート独裁の時期の階級闘争を否定し、経済戦線、政治戦線、思想戦線で徹底的に社会主義革命をやりぬく必要性を否定することはあやまりであつて、客観的な事実になつておらず、マルクス・レーニン主義にそむくものです。

(一八) マルクスとレーニンは、共産主義社会が高い段階にはいる以前は資本主義から共産主義への過渡期にぞくし、プロレタリアート独裁の時期であるとみなしています。プロレタリアート独裁つまりプロレタリア国家は、この過渡期のなかで、成立し、うちかためられ、強まり、さらにはしだいに死滅するという弁証法的過程をたどります。

マルクスは、『ゴータ綱領批判』のなかで、つぎのように問題を提起しています。「資本主義社会と共産主義社会とのあいだには、前者から後者への革命的転化の時期がある。この時期に照応してまた政治的過渡期がある。この過渡期の国家はプロレタリアートの革命的独裁でしかありえない」

レーニンはつねにプロレタリアート独裁の問題についてのマルクスの偉大な学説をくりかえし

強調しました。とくに、その偉大な著作『国家と革命』では、プロレタリアート独裁についてのマルクスの学説の発展過程を分析すると同時に、自分じしんも「共産主義へ発展しつつある資本主義社会から共産主義社会への移行は、『政治的過渡期』なしには不可能である、そして、この時期の国家は、プロレタリアートの革命的独裁でしかありえない」と書いています。

レーニンも、また、つぎのようにのべています。「階級の独裁は、一般の階級社会だけに必要なのではなく、またブルジョアジーをうちたおしたプロレタリアートだけに必要なのではなく、さらに資本主義から『無階級社会』へ移行し、共産主義へ移行する全歴史の時期にも必要である。この点を理解した人のみが、マルクスの国家学説の実質を会得できたといえるのである」

以上のべたように、マルクスとレーニンの基本的な思想はつぎのようなものです。つまり、資本主義から共産主義へ移行する全歴史の時期、すなわち、すべての階級の差異をなくし、階級のない社会にはいる以前の時期、共産主義社会の高い段階にはいる以前の時期には、プロレタリアート独裁がひきつづき存在するのはさけられないということがそれであります。

もし中途でプロレタリアート独裁はもはや必要がないと宣言するなら、どういうことになるのでしょうか。

それは、根本的にマルクス、レーニンのプロレタリアート独裁の国家学説に抵触するのではな

いでしょうか。

それは、「資本主義から社会主義に残されたこの伝染病、疫病、潰瘍」をはびこるままにまかせることではないでしょうか。

つまり、それではひじょうに重大な結果をまねくこととなり、共産主義への移行など問題にならないのです。

いったい、「全人民の国家」などというものがありうるでしょうか、「全人民の国家」などというものをプロレタリアート独裁の国家にとってかわらせていいものでしょうか。

この問題は、どこかの国の内政問題ではなく、マルクス・レーニン主義の普遍的真理にかかわる根本問題です。

マルクス・レーニン主義者からみれば、非階級的、超階級的な国家などというものはありません。国家であるかぎり、かならず階級性をもっています。国家が存在するかぎり、それは「全人民」的のものではありません。ひとたび、社会に階級がなくなれば、国家などというものもなくなります。

では、いわゆる「全人民の国家」とは、いったいどのようなものなのでしょうか。

マルクス・レーニン主義の常識をそなえているものなら誰も、「全人民の国家」などというも

のはけつして目あたらしいものでないことを知っています。ブルジョアジーの代表的人物は、ゆらい、ブルジョア国家を「全人民の国家」とか、「全人民的権力の国家」とかとよんでいます。

ある人は、自分のところはもう階級のない社会だといっています。わたしたちは、そうではない、すべての社会主義国家には例外なく階級と階級闘争が存在する、と答えます。

そこには、復活をはかるふり搾取階級の残存分子がおり、新しいブルジョア分子がつねにうまれ、また、寄生虫、投機分子、なまけ者、ごろつき、国家財産の窃盗犯などがある以上、階級と階級闘争がなくなつたなどどうしていえるでしょうか。プロレタリアート独裁がもう必要ではなくなつたなどどうしていえるでしょうか。

マルクス・レーニン主義がわれわれに教えているように、プロレタリアート独裁の歴史的任務は、敵対階級を弾圧するほか、社会主義建設の過程で、労働者階級と農民の関係を正しく処理し、労働者階級と農民の政治上、経済上の同盟をつよめ、労働者と農民の階級的差異をしないでなくす条件をつくつていかねばなりません。

社会主義社会の経済基礎からみれば、すべての社会主義国にはなんの例外もなく、全人民所有制と集団所有制の差異が存在しており、また、個人所有制も存在しています。全人民所有制と集団所有制は、社会主義社会の二種類の所有制で、社会主義社会の二種類の生産関係であります。

全人民所有制の企業ではたらく労働者と集団所有制の農場ではたらく農民は、社会主義社会の二種類の勤労者です。したがつて、すべての社会主義国には、例外なく、労働者と農民の階級的差異が存在しています。こういった差異は、共産主義の高い段階にはいつて、はじめてなくなるものです。現在、すべての社会主義国の経済の発展水準は、「能力に応じてはたらき、必要に応じて分配する」という共産主義の高い段階にはまだまだ非常にとおいものです。したがつて、労働者と農民の階級的差異をなくすには、まだまだひじょうにながい時間が必要です。こういった階級的差異がなくなるならいかに、階級のない社会などということはできず、プロレタリアート独裁がもう必要でなくなつたなどということはできません。

社会主義国家を「全人民の国家」とよぶのは、ブルジョアジーの国家学説をマルクス・レーニン主義の国家学説にとつてかわらせようとするものではないでしょうか。他の性質をもつ国家をプロレタリアート独裁の国家にとつてかわらせようとするものではないでしょうか。

もしそうであれば、歴史の大後退にはかたまりません。ユーゴスラビアの社会制度の変質こそは、まさしく重大な教訓であります。

(一九)レーニン主義は、社会主義国のなかで、プロレタリア政党はプロレタリアート独裁とともに存在するのではありませんかと考えています。プロレタリアート独裁の全歴史的時期を



つうじて、プロレタリア政党がないわけにはゆきません。なぜなら、プロレタリアート独裁は、プロレタリアートと人民の敵に反対するものであり、農民とその他の小生産者を改造するものであり、プロレタリアートの隊列をつねに整頓するものであり、社会主義を建設し共産主義に移行するものであって、プロレタリア政党の指導がなければならぬからです。

いつたい、「全人民の党」などというものがありうるでしょうか。「全人民の党」などというものをプロレタリアートの前衛党にとつてかわらせていいものでしょうか。

この問題も、どこかの国の党の内部問題ではなく、マルクス・レーニン主義の普遍的な真理にかかわる根本問題です。

マルクス・レーニン主義者からみれば、非階級的、超階級的な政党などというものはありません。あらゆる政党はみな階級性をそなえているものです。党派性は階級性の集中的ならわれにほかなりません。

プロレタリア政党は、人民ぜんたいの利益を代表できる唯一の政党です。それが人民ぜんたいの利益を代表することができるのは、ほかでもなく、それがプロレタリアートの利益の代表者であり、プロレタリアートの思想と意志を集中したものであるからです。それが人民ぜんたいを指導できるのは、プロレタリアートが全人類を解放してはじめて自己を最終的に解放することができる

からであり、それがプロレタリアートの固有の性格にもとづき、プロレタリアートの現在と将来の利益にもとづいて問題を考え、人民にたいして無限の忠誠と自己犠牲的な精神をもっており、それによつて党の民主集中制と鉄の規律が形づくられているからです。このような政党がなくては、プロレタリアート独裁を維持することはできず、人民ぜんたいの利益を代表することはできません。

共産主義社会の高い段階にはいるまでの時期に、もしもその途中で、プロレタリア政党がすでに「全人民の党」になつたなどと宣言し、党のプロレタリアートの性質を否定するならば、一体どういうことになるでしょうか。

それでは、マルクス、レーニンのプロレタリア政党の学説と根本的に抵触するのではないのでしょうか。

それでは、プロレタリアートとすべての勤労者の武装を組織上、精神上で解除してしまい、資本主義の復活のため犬馬の勞をとるのとおなじではないのでしょうか。

このような状況のもとで、共産主義社会への移行などを論じてみても、かじ棒は雨にむけ、車は北にゆくことになるのではないのでしょうか。

(二〇) ここ数年らい、一部の人が指導者、政党、階級、大衆の相互関係についてのレー

ニンの全学説にそむいて、いわゆる「個人迷信反対」をもちだしたのは、あやまりであり、有害であります。

レーニンがこの問題について提起した学説はつぎのようなものです。

- 1 大衆は諸階級に区分される。
- 2 階級はふつう政党が指導する。
- 3 政党はふつうわりあい安定した集団によつて指導されるが、この集団は、もつとも権威をもち、もつとも影響力をもち、もつとも経験をもち、えらばれてもつとも重要な職務につき、指導者とよばれる人たちによつて構成される。

以上の点を、レーニンは「すべて最低限の常識である」とのべています。

プロレタリア政党は、プロレタリアートの革命的、戦闘的な司令部であります。いかなるプロレタリア政党も、かならず民主主義を基礎とした集中制を実施しなければならず、マルクス・レーニン主義の強力な指導をうちたてなければなりません。それでこそはじめて組織性と戦闘力をもつ前衛となることができるのです。いわゆる「個人迷信反対」をもちだすのは、実際には、指導者と大衆を対立させ、党の民主集中制の統一的な指導を破壊し、党の戦闘力を弛緩させ、党の隊列を瓦解させるものであります。

レーニンは、指導者と大衆を対立させるそうしたあやまった観点を批判しました。レーニンはこれを「笑うべきナンセンスであり、ばかげたことである」といつています。

中国共産党は、ゆらい、個人の役割を誇張することに賛成しておらず、党の民主集中制を主張し、これをだんこ実施し、指導と大衆の結合を主張し、およそ正しい指導というものはすべて大衆の意見を集中することに長じていなければならないと考えています。

いちぶの人びとはいわゆる「個人迷信反対」を大いにおこない、実際にはプロレタリア政党、プロレタリアート独裁を極力みにくく描きたすとともに、他方、ある個人の役割を大いに宣伝し、すべてのあやまちを他人におしつけ、すべての功績を自分のものにしていきます。

もつと重大なことは、いちぶの人びとが、いわゆる「個人迷信反対」を口実にして、横暴にも他の兄弟党や兄弟国の内政に干渉し、強引に他の兄弟党の指導を変更して、自分のあやまった路線を他の兄弟党におしつけていることです。こうしたやりかたは、大国排外主義、セクト主義、分裂主義でなく、てんぶく活動でなくてなんでしょうか。

いまこそ、指導者、政党、階級、大衆の相互関係についてのレーニンの全学説をまじめに全面的に宣伝すべきときであります。

(二一) 社会主義国のあいだの関係は、新しい型の国際関係であります。社会主義国のあいだ

では、国の大小や経済発展のいかんにかかわらずなく、その相互の関係を完全な平等、領土保全の尊重、国家の主権と独立の尊重、内政の相互不干渉という原則にもとづいてうちたてなければならず、プロレタリア国際主義の相互支持と相互援助という原則にもとづいてうちたてなければなりません。

いかなる社会主義国の建設事業も、主として自力更生にたよらなければなりません。

それぞれの社会主義国は、なによりもまず自国の具体的な状況に応じ、自国民の勤勉な労働と知恵にたよって、自国の利用できるあらゆる資源を計画的にあますところなく利用し、自国の社会主義建設のあらゆる潜在能力をほりおこさなければなりません。こうしてこそはじめて、効果的に社会主義を建設することができ、自国の経済を急速に発展させることができるのであります。

また、こうしてこそはじめて、各社会主義国は社会主義陣営せんとたいの威力をつよめることができ、国際プロレタリアートの革命事業を援助する力を大きくすることができるのであります。だから、自力更生を主とする建設方針を遂行することは、プロレタリア国際主義の具体的なあらわれにほかなりません。

いかなる社会主義国でも、もし自国の局部的な利益だけから出発して、他の兄弟国が自国の需

要に服従するよう一方的に要求し、さらにはいわゆる「ひとり仕事」とか、「民族主義」とかに反対するという口実で、他の兄弟国が自力更生を主とする建設方針をすすめることに反対し、他の兄弟国が独立、自主の基礎のうえに経済を発展させることに反対し、さらには他の兄弟国にたいし経済的な圧力をくわえるというようなことまでするなら、それこそ真正銘の民族的利己主義のあらわれにほかなりません。

社会主義国が経済の面で相互に協力し、有無あい通することはまったく必要なことです。この種の経済協力は完全な平等、互恵、同志的な相互援助という原則にもとづいてうちたてられなければなりません。

もしこれらの基本原則を否定し、「国際的分業」とか「専門化」とかの名目で、自己の意志を他人におしつけ、他の兄弟国の独立と主権をそこない、他の兄弟国民の利益をそこなうなら、それこそ大國排外主義にほかなりません。

もし資本主義国の相互関係のなかにある、他人に損をさせて自分だけが得をするようなやり方を社会主義国の相互関係のなかにもちこみ、さらには独占資本グループが市場の争奪、利潤の山わけのために設けた「経済一体化」とか「共同市場」とかというものを、社会主義諸国の経済の相互援助と協力の手本にしてもよいとまでも考えるなら、これほど馬鹿げたことはありません。

(三) 一九五七年の宣言と一九六〇年の声明には、兄弟党の関係についての準則がきめてあります。これらの準則とは、マルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義の基礎のうえにたつて団結するという原則、たがいに支持し、援助しあう原則、独立自主と平等の原則、話しあいで見解を統一する原則であります。

われわれは、ソ連共産党中央委員会の三月三十日づけの書簡のなかで、共産主義運動のなかには「上級の党」や「下級の党」というものではなく、すべての共産党はみな独立、平等であり、これらの党の関係はプロレタリア国際主義と相互援助の基礎のうえにうちたてられなければならない、とのべてあることに注意をひきました。

共産主義者のおととい品性は言葉と行動が一致することです。プロレタリア国際主義の原則に違反するのではなく、これを真に堅持すること、兄弟党の相互関係についての準則を破壊するのではなく、これを真にまもること——言葉のうえだけでなく、いっそう重要なのは行動のうえでもそうすることこそ、兄弟党の団結をまもり、つよめる唯一の正しい道なのであります。

もし兄弟党の関係のなかの独立と平等の原則をみとめるなら、自分じしんを他の兄弟党のうえにおくことは許されず、兄弟党の内部のことがらに干渉することは許されず、兄弟党の関係のなかで家父長制を実施することは許されません。

もし兄弟党の関係のなかに「上級」と「下級」の区別がないことを認めるなら、自分じしんの一党の綱領、決議、路線を国際共産主義運動の「共同綱領」として他の兄弟党におしつけることは許されません。

もし兄弟党の関係のなかの話しあいで見解を統一する原則を認めるなら、「誰が多数で、誰が少数だ」などということを確認してはならず、いわゆる多数をたのみにして自分の誤った路線を強引におしすすめ、セクト主義と分裂主義の政策を実行するようなことをしてはなりません。

もし兄弟党のあいだの意見の相違を内部の話しあいでは解決することに同意するなら、自国や他国の党大会、指導者の演説を利用し、決議や声明などの方式をつうじて、公然と名ざして他の兄弟党を攻撃するようなことはすべきでなく、兄弟党のあいだの思想上のくい違いを国家関係の面にまでひろげるようなことはなおさらすべきではありません。

いま国際共産主義の隊列のなかに意見の相違が存在する状況のもとでは、宣言と声明できめられた兄弟党の関係についての準則を厳格にまもることを強調することがとくに重要であると、われわれは考えます。

いま、兄弟党、兄弟国の関係のなかではソ連とアルバニアの関係がとくにきわだった問題です。ソ連、アルバニアの両党、両国の関係についての問題は、どのように正しく兄弟党、兄弟国

に対処するかの問題であり、宣言と声明で、きめられた兄弟党、兄弟国の関係についての準則をまもる必要があるかどうかの問題であります。この問題を正しく解決することは、社会主義陣営の団結と国際共産主義運動の団結をまもるうえで原則的な意義をもっています。

マルクス・レーニン主義の兄弟党であるアルバニア労働党にたいしてどういう態度をとるか、これはひとつのことからです。マルクス・レーニン主義の裏切り者であるユーゴスラビア修正主義グループにたいしてどういう態度をとるか、これはまた別のことがらです。この二つの根本的にことなつた性質の問題は決して同日に論ずることができません。

あなた方は書簡のなかで、一方では「ソ連共産党とアルバニア労働党のあいだの関係を改善しよう」という考えを放棄してはいない」とのべながら、他方ではアルバニアの同志が「分裂行動」をとつているとひきつづき攻撃をくわえています。これはあきらかに自己矛盾であつて、ソ連、アルバニア関係の問題を解決するには役だちません。

いつたい、ソ連とアルバニアの関係で分裂行動をとつたのは誰なのでしょうか。

いつたい、ソ連、アルバニア両党のあいだの思想上のくい違いを国家関係の面までひろげたのは誰なのでしょうか。

いつたい、ソ連、アルバニア両党、両国の意見のくい違いを敵のまえに公然とさらけだしたの

は誰なのでしょうか。

いつたい、アルバニアの党と国家の指導を変更するように公然と呼びかけたのは誰なのでしょうか。

これらすべての問題は、全世界のまえにあからさまにならべられています。

ソ連、アルバニア関係がいまのような重大な事態にまで悪化するにいたつたことについて、ソ連共産党の指導者の同志たちははたして真に自分の責任を感じないのでしょうか。

われわれは、ソ連共産党の指導者の同志たちが兄弟党、兄弟国の関係についての準則をまもり、みづからすすんでソ連、アルバニア関係を改善する効果的な方法を捜しもとめるよう、いま一度ここから希望するものです。

いずれにせよ、兄弟党、兄弟国間の関係をいかに処理するかは、慎重に対処しなければならぬ問題です。兄弟党、兄弟国の関係についての準則を厳格にまもることこそ、帝国主義反動派のふりまいている「モスクワの手」といつたたぐいの中傷にたいするもつとも有力な反撃となるのであります。

プロレタリア国際主義は、党が大きいか小さいか、権力をとつているかないかにかかわらずなく、例外なしに要求されるものです。けれども、大きな党、権力をにぎっている党は、この面で

とくに重大な責任を負っています。過去のある時期、社会主義陣営におきた、人びとを悲しませる一連の事件は、関係のある兄弟党の利益に損害をあたえたばかりでなく、関係のある兄弟国の広はん人民大衆の利益にも損害をあたえています。この事実は、大きな国、大きな党がかならずレーニンの遺訓を肝に銘じ、けつして大國排外主義の誤りをおかしてはならないことを有力に立証しています。

ソ連共産党の同志はその書簡のなかで、「ソ連共産党は、兄弟のような中国人民およびその他の国の人民にたいする悪感情を、わが国の諸民族のなかにうえつけるようなことは、これまでもしなかつたし、将来もしないだろう」と言明しています。われわれはここで過去のかずかずの不愉快な事実についてあらためてのべるつもりはありませんが、せめてソ連共産党の同志がこの行動のなかでこの言明を堅くまもってくればよいと思います。

数年来、われわれは兄弟党、兄弟国の関係についての準則に違反する一連の重大な事件に直面し、われわれにおしつけられた多くの困難と損失をこうむってきましたが、それにもかかわらず、わが党の黨員、わが国の人民は自制に自制をかさねてきました。中国の共産主義者と中国人民のプロレタリア国際主義の精神は、きびしい試験にたえぬいてきたのであります。

中国共産党は終始一貫プロレタリア国際主義に忠実であり、一九五七年の宣言と一九六〇年の

声明で定められた兄弟党、兄弟国の関係についての準則を堅持し、これを擁護しており、社会主義陣営の団結と国際共産主義運動の団結をまもり、これを強めています。

(二三) 各国の兄弟党が一致してとりきめた国際共産主義運動の共同綱領を実現するためには、マルクス・レーニン主義にそむくさまざまな日和見主義と妥協のないたたかをおこなわなければなりません。

宣言と声明は、国際共産主義運動のなかのおもな危険は修正主義、いかえれば右翼日和見主義であると指摘しています。ユーゴスラビアの修正主義は現代修正主義を代表するものです。

声明は、「各国共産党は、現代修正主義者の『理論』の集中的ならわれであり、国際的日和見主義の一変種であるユーゴスラビアの日和見主義を一致して非難した」とくに指摘しました。

声明はつづいて、「マルクス・レーニン主義をうらざり、それを時代おくれのものといっているユーゴスラビア共産主義者同盟の幹部たちは、一九五七年の宣言に反レーニンの修正主義的綱領をもって対抗した。かれらは、ユーゴスラビア共産主義者同盟を国際共産主義運動全体に對抗させ、自国を社会主義陣営から切り離してアメリカその他の帝國主義者のいわゆる『援助』に依存させている」と指摘しています。

声明はまた、「ユーゴスラビアの修正主義者は、社会主義陣営と国際共産主義運動にたいして破壊工作をおこなっている。かれらはブロック不参加政策という口実にかくれて、すべての平和を愛する勢力と諸国家の団結をやぶる活動をくりひろげている」と指摘しています。

ここから声明はつぎのような結論を出しています。「ユーゴスラビア修正主義者の指導者を今後とも暴露し、共産主義運動と労働運動をユーゴスラビア修正主義者の反レーニン主義的思想からまもるために積極的になたかうことは、依然としてマルクス・レーニン主義党の欠くことのできない課題である」

ここに提起された問題は、まさしく国際共産主義運動におけるひとつの重大な原則問題であります。

つい最近も、チトー一味は自分たちの修正主義的綱領を堅持し、宣言や声明と対立する反マルクス・レーニン主義の立場を堅持することを公然と声明しています。

長期にわたって、アメリカ帝国主義とその北大西洋ブロックの相棒たちは数十億の米ドルをつかってチトー一味を飼育してきました。チトー一味は「マルクス・レーニン主義」のペールをまとい、「社会主義国」の旗をかかげて、国際共産主義運動と世界人民の革命事業を破壊し、アメリカ帝国主義の別動隊となつていきます。

ユーゴスラビアには「一定のこのましい傾向」がうまれていたとか、ユーゴスラビアは「社会主義国」だとか、チトー一味は「反帝勢力」だとかいうのは、まったく事実合致せず、まったく根拠がありません。

げんざい、ある人はユーゴスラビア修正主義グループを社会主義の大家庭と国際共産主義の隊列にひきいれ、一九六〇年の兄弟党会議の一致した申しあわせを公然とホゴにしようとしています。だが、これはぜつたいに許されぬことです。

数年らゝい、修正主義思想の潮流が国際労働運動のなかにはらんしていることや、国際共産主義運動のなかでのいくたの経験と教訓は、修正主義が当面の国際共産主義運動のなかでのおもな危険である、という宣言と声明の断定の正しさをあますところなく証明しています。

しかし、ある人びとは、おもな危険が修正主義でなく教条主義であるとか、教条主義の危険は修正主義よりも小さくはないとか公然と言っています。これでは、いったい、原則性などというものがあるのでしょいか。

確固としたマルクス・レーニン主義者、真のマルクス・レーニン主義の政党はかならず原則を第一位におかなければなりません。原則を取り引きして、いまこれに賛成したと思えばすぐそれに賛成し、いまこれを主張したと思えばすぐそれを主張するというふうであつてはなりません。

マルクス・レーニン主義の純潔をまもり、宣言と声明の原則的立場をまもるためには、中国の共産主義者は、ひきつづきすべてのマルクス・レーニン主義者とともに、現代修正主義にたいして妥協のないたたかいをすすめるでしょう。

国際共産主義運動でのおもな危険である修正主義に反対するとともに、共産主義者はまた教条主義にも反対しなければなりません。

一九五七年の宣言には、プロレタリア政党内、「マルクス・レーニン主義の普遍的真理を各国の革命と建設の具体的な実践にむすびつけるという原則を堅持しなければならない」とのべています。

それはつまり、

一方では、いついかなるときもマルクス・レーニン主義の普遍的真理を堅持せねばなりません。もしそうでなければ、右翼日和見主義あるいは修正主義の誤りをおかすことになるでしょう。

他方では、つねに実際の生活から出発して、大衆と緊密にむすびつき、たえまなく大衆闘争の経験を総括し、自国の実情に適した政策と戦術を独自にきため、実行しなければなりません。もしそうしないで、他国の共産党の政策と戦術を機械的にひきうつし、他人のおしつけた意志を盲目的にうけいれ、他国の共産党の綱領と決議を分析もくわえずに自分の路線とするなら、それは

教条主義のあやまりをおかすことになるでしょう。

げんざい、ある人たちは、ほかでもなく、宣言が早くから確定しているこの基本原則にそむいています。かれらは、「マルクス・レーニン主義を創造的に発展させる」などという口実をもうけて、マルクス・レーニン主義の普遍的真理をかぎりすめています。かれらはまた、主観的な臆測からつくりだした、実際からはなれ、大衆からうきあがつた処方箋を「マルクス・レーニン主義の普遍的真理」などといい、他人にもそれを無条件にうけいれるようおしつけています。当面、国際共産主義運動のなかでの数多くの重大な現象は、ほかでもなく、このようにしてうまれたものなのです。

(二四) 国際共産主義運動のもつとも重要な経験は、革命が発展し、勝利をおさめるかどうかは、プロレタリアートの革命的政党があるかどうかにかかっているということです。

革命的政党はどうしてもなければなりません。

マルクス・レーニン主義の革命理論と革命の風格にもとづいて建設された革命的政党はどうしてもなければなりません。

マルクス・レーニン主義の普遍的な真理と自国の革命の具体的な実践をよく結びつけることのできる革命的政党はどうしてもなければなりません。



指導の側と広はん人民大衆を緊密に結びつけることに長じている革命的政党はどうしてもなくてはなりません。

真理を堅持し、あやまちをただすことができ、批判と自己批判をりつぱにおこなうことができる革命的政党はどうしてもなければなりません。

このような革命的政党であつてこそ、プロレタリアートと広はん人民大衆を指導して、帝国主義とその手先にうち勝つことができ、民族民主革命の徹底的な勝利と社会主義革命の勝利をかちとることができるのです。

もしプロレタリアートの革命的政党でなくて、ブルジョアジーの改良的政党であるなら、

もしマルクス・レーニン主義の党でなくて、修正主義の党であるなら、

もしプロレタリアートの前衛党でなくて、ブルジョアジーに追随する党であるなら、

もしプロレタリアートと広はん労働者の利益を代表する党でなくて、労働貴族の利益を代表する党であるなら、

もし国際主義的な党でなくて、民族主義的な党であるなら、

もし自分で考え、自分で頭をはたらかせ、まじめな調査研究活動によつて自国の各階級の的確な動向をしつかりとつかみ、マルクス・レーニン主義の普遍的真理をりつぱに運用して、自国の

具体的な実践に結びつけるというのではなく、ただ他人の口まねをし、分析もしないで外国の経験をひきうつし、外国のある人たちの指揮棒にふりまわされるだけであるなら、つまり、修正主義と教条主義をなにかもそろえて、ゴツタ煮になり、ただマルクス・レーニン主義の原則性だけが無いというような党であるなら、

それなら、このような党は、プロレタリアートと広はん人民大衆を指導して革命闘争をすすめることは絶対にできず、革命の勝利をかちとることは絶対にできず、プロレタリアートの偉大な歴史的使命をなしとげることは絶対にできません。

これは、各国のマルクス・レーニン主義者、自覚した労働者、すべての先進的な人たちがふかく思いをいたさなければならぬ問題です。

(二五) マルクス・レーニン主義者は国際共産主義運動のなかに生まれた意見の相違にたいし、是非をあきらかにする責任があります。団結して敵にあたるという共同の利益のためには、われわれはゆらい内部の話し合いで問題を解決することを主張し、意見の相違を敵の前にさらけだすことに反対してきました。

ソ連共産党の同志も知つていのように、げんざいの国際共産主義運動の公然たる論戦は、いづれの兄弟党の指導者がいどみ、われわれにおしつけてきたものであります。

すでに公然たる論争がいとまれた以上、この論争は、各兄弟党の平等の基礎のうえでおこな  
い、民主主義の基礎のうえでおこない、事実をあげ、道理をとくという態度をとるほかありませ  
ん。

いちぶの党の指導者がすでに公然と他の兄弟党に攻撃をくわえ、公然たる論争をいどんできた  
以上、攻撃された兄弟党の側がかれらに公然と回答するのを禁止する理由もなければ、権利もな  
いと、われわれは考えています。

いちぶの党の指導者は、自分じしん他の兄弟党を攻撃する文章をたくさん発表しておきなが  
ら、どうして他の兄弟党の回答の文章を自分の新聞、雑誌に公然と発表しないのでしょうか。

さいきん、中国共産党はじつに途方もない攻撃をうけました。それらの攻撃者は大いにわめき  
たて、事実を無視して、いくたの罪名をでっちあげ、われわれにおしかぶせています。われわれ  
を攻撃したこれらの文章や言論を、われわれは自分の新聞紙上に発表しました。

一九六二年十二月十二日最高ソビエト会議でのソ連の指導者の報告、一九六三年一月七日のソ  
連『プラウダ』紙編集部の文章、一九六三年一月十六日のドイツ社会主義統一党第六回大会にお  
けるソ連共産党代表団団長のあいさつ、一九六三年二月十日のソ連『プラウダ』紙編集部の文  
章、これらもすべてわれわれの新聞紙上に全文発表しました。

ソ連共産党中央委員会の一九六三年二月二十一日と三月三十日の二回の書簡も、われわれは全  
文を発表しました。

われわれは、いくつかの兄弟党のわれわれを攻撃した文章や言論にたいし、あるものについて  
はすでに回答しましたが、あるものについてはまだ回答していません。たとえば、ソ連共産党の  
同志のおおくの文章や言論にたいしては、われわれはまだ直接に回答してはいません。

われわれは、一九六二年十二月十五日から一九六三年三月八日までのあいだに、ぜんぶで七編  
の文章を書いて攻撃者に答えてきました。これらの文章の題目は、つぎのとおりです。

『全世界のプロレタリアートは団結してわれわれの共同の敵に反対しよう』

『トリアッチ同志とわれわれとの意見の相違について』

『レーニン主義と現代修正主義』

『モスクワ宣言とモスクワ声明の基礎のうえに団結しよう』

『意見の相違はどこからくるか——トレーズらの同志に答える』  
『ふたたびトリアッチ同志とわれわれとの意見の相違について——レーニン主義の現代におけ  
るいくつかの重要問題』

『アメリカ共産党の声明を評す』

あなたがたは三月三十日づけの手紙の末尾で、中国の新聞、雑誌がソ連共産党にたいし「なんらの根拠もない攻撃」をくわえたと非難していますが、これはおそろくこれらの文章を指しているのでしょうか。われわれが攻撃者に回答した文章を「攻撃」だというのは、まったく白を黒といいくるめるものであります。

あなたがたは、われわれの文章を「なんらの根拠もない」ものだといひ、あれほど悪いものだと言っています。それなら、あなたがたは、なぜわれわれがあなたの文章を発表しているように、われわれのこの七編のいわゆる「なんらの根拠もない攻撃」の文章をぜんぶ公表し、ソ連のすべての同志たち、ソ連のすべての人民に、誰が正しく、誰が正しくないかを考えさせ、判断させるようにしないのでしょうか。もちろん、あなたがたも、あなたがたが「なんらの根拠もない攻撃」だと考えるこれらの文章について、逐条的にいくらでも反駁していただいで結構です。

あなたがたは、われわれの文章が「なんらの根拠もない」ものだといひ、われわれの論点が誤りだといひながらも、われわれの真の論点をソ連の人民にありのままに知らせてはけません。このようなやりかたは、どうみても、兄弟党のあいだでの問題の討論にたいし、真理にたいし、また大衆にたいして敵愾な態度をとっているとはいえません。

われわれは、兄弟党の公然たる論争が停止されることを望んでいます。この問題は、かならず

兄弟党の独立、平等、話しあいによつて見解を統一する原則にもとづいて処理しなければなりません。国際共産主義運動のなかでは、自分のおもわくで攻撃したいと思うときに攻撃をくわえ、相手の回答を禁止しようと思ふときに「公然たる論争を止めよ」と命令をだす権利は誰ももつていないのであります。

ソ連共産党の同志も知つていふように、われわれは、兄弟党会議の開催にこのましいふんい気をつくるため、兄弟党の同志がわれわれに公然と名ざしてくわえた攻撃にたいし、一九六三年三月九日から、公然たる回答をいちじ停止することにきめました。われわれは公然と回答する権利を保留しています。

われわれは三月九日にあなたがたへ書き送つた書簡のなかで、公然たる論争を停止する問題について、「われわれ両党と関係ある各兄弟党が討議して、各方面が受けいれられる公平なとりきめを達成する必要がある」とのべています。

X

X

X

以上にのべたのは、国際共産主義運動の総路線とそれにかかわりある若干の原則的な問題についてわれわれの意見であります。この書簡の冒頭で希望しておいたように、われわれがこのように率直にこれらの意見を提出することはおたがいの相互理解をふかめるのに役だつてでしょう。

もちろん、これらの意見に、同志たちは賛成してもよいし、賛成しなくてもよいのです。しかし、われわれから見れば、われわれがここでのべた問題は、みな国際共産主義運動にとって、注意をほらい、解決する必要がある中心の問題です。これらすべての問題と、あなたがたが書簡のなかで提起された問題について、われわれは両党の会談と世界の兄弟党代表者会議でじゅうぶんな討議をおこないたいとのぞんでいます。

このほか、たとえばスターリン批判の問題や、ソ連共産党第二十回大会と第二十二回大会で提起された国際共産主義運動に関する若干の重大な原則的問題など、ともに関係のあるいくつかの問題があります。こうした問題についても、われわれは会談のさい率直に意見を交換したいと思っております。

両党の会談をおこなうことについては、われわれは三月九日にあなたがたに送った書簡のなかで、フルシチョフ同志が北京に来られるよう提案し、もし都合がわるければ、ソ連共産党中央委員会の他の責任ある同志が代表団をひきいて北京に来られてもよいし、あるいは、われわれがモスクワへ代表団を派遣してもよいとのべておきました。

あなたがたは三月三十日づけの書簡のなかで、フルシチョフ同志が中国に来れないと表明していますが、代表団を中国に派遣したいとも表明していません。したがって、中国共産党中央委

員会はモスクワへ代表団を派遣することにきめました。

あなたがたは三月三十日づけの書簡で、毛沢東同志がソ連を訪問するよう招請されました。毛沢東同志ははやくも二月二十三日に中国駐在ソ連大使との談話で、いまソ連を訪問する用意がない理由をすでに明確に話されました。この点については、あなたがたははつきりと知っているはずです。

中国共産党中央委員会の責任ある同志は、すでに五月九日中国駐在ソ連大使と会見したさい、中国共産党中央委員会が六月中旬にモスクワへ代表団を派遣するむね通知しました。その後、ソ連共産党中央委員会の要求により、われわれはまた両党の会談を七月五日に延期することに同意しました。

われわれは、中ソ両党の会談が積極的な成果をおさめ、各国共産党・労働者党代表者会議の開催の準備に寄与できるよう、心から希望しています。

げんざい、各国の共産主義者がマルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義の基礎のうえに立ち、兄弟党が一致してとりきめた宣言と声明の基礎のうえに立って団結することが、いかなるときにもまして強く要求されています。

中国共産党は、社会主義陣営と国際共産主義運動の利益をまもるため、被抑圧人民と被抑圧民

族の解放事業の利益をまもるため、また帝国主義に反対し、世界の平和をかちとる事業の利益をまもるため、すべてのマルクス・レーニン主義政党とともに、全世界の革命的人民とともに、ひきつづき努力したいとねがっています。

こんど、国際共産主義の隊列のなかに、身うちものを悲しませ、仇敵をよろこばせるあめした現象が二度とふたたび出現しないよう、われわれは希望しています。

中国の共産主義者は、全世界のマルクス・レーニン主義者、全世界のプロレタリアート、全世界の革命的人民が、帝国主義に反対し、世界の平和をまもる闘争のなかで、また世界人民の革命事業と国際共産主義事業を促進する闘争のなかで、かならずよりいつそう団結をかため、さまざまの困難と障害をのりこえて、さらに偉大な勝利をかちとるものと確信しています。

全世界のプロレタリアは団結し、全世界のプロレタリアと被抑圧人民、被抑圧民族は団結して、われわれの共通の敵に反対しよう！

共産主義のあいさつをおくります！

一九六三年六月十四日

中国共産党中央委員会

### ソ連共産党中央委員会の中国共産党中央委員会あて書簡

(一九六三年三月三十日)

中国共産党中央委員会

親愛な同志のみなさん

ソ連共産党中央委員会は、共産主義運動の隊列の統一と団結をつよめる措置についてわれわれがおこなった提案に、中国共産党中央委員会がはつきりおうじたことに満足の意をこめて指摘するものです。われわれは、あなた方がソ連、中国両党の代表会談開催に賛成したことを歓迎します。この種の会談は、各兄弟党の相互関係によりふんい気をうみだし、国際共産主義運動の中に最近生じた意見の相違をとりのぞくうえで重要な働きをすべきであります。われわれは、このたびの会談をつうじて、現存する困難を克服する一連の建設的な措置が実現できるようにのぞんでいきます。

中国共産党中央委員会は、その書簡の中で、エヌ・エス・フルンチョフ同志がカンボジア訪問のさい、ついでに北京を訪問するよう招かれました。ソ連共産党中央委員会とエヌ・エス・フル

シチョフ同志は、このお招きに感謝の意を表します。エヌ・エス・フルシチョフ同志は、中華人民共和国を訪問して、中国共産党の指導者と会談し、国際情勢および共産主義運動に関する成熟した諸問題について意見を交換することによって、われわれの任務とわれわれ両党の団結をつよめる問題についての共通した理解をうるようにしたい、とひじょうにのぞんでいます。しかし、書簡の中であなた方がのべている、エヌ・エス・フルシチョフ同志のカンボジア訪問については、まだその計画をたてたことがありません。周知のように、われわれの指導機関が今年の二月十二日に採択した決定によると、カンボジアを訪問するのはソ連最高会議幹部会議長エリ・イ・ブレジネフ同志です。このことはすでにカンボジア政府に通知され、また、新聞にも発表されています。これまでに三たび中国を訪れたエヌ・エス・フルシチョフ同志は、将来あなた方の厚意にみちた招きにこたえて中国を訪問し、中国の同志のみなさんと会う希望をすてていません。

一九五七年、モスクワ滞在中に毛沢東同志は、自分がソ連を訪れたのは二回だけで、しかもモスクワとレニングラードしか訪問していない、と語ったことを、われわれは記憶しています。毛沢東同志は、ふたたびソ連を訪れてわれわれの国をいつそよく理解したいとの希望を表明しました。そのさい、わが国を東から西へ、南から北へといちど旅行したい、と毛沢東同志のべました。毛沢東同志のこの希望にたいしてわれわれは歓迎の意を表しました。

一九六〇年五月十二日、ソ連共産党中央委員会は毛沢東同志に書簡をおくり、ソ連にきて休養をとり、ソ連人民の生活を理解するようにと、招きました。残念ながら、そのとき毛沢東同志はこの招きにこたえることができませんでした。ソ連共産党中央委員会は毛沢東同志の訪問を歓迎します。やがておとずれる春または夏は一年中でわが国のよい季節であり、そうした訪問にはもつともよい時期であります。われわれはまた、それ以外のどの時期でも、兄弟党と兄弟である中国人民の代表者毛沢東同志にたいしてしかるべきもてなしをしたいとのぞんでいます。こんど毛沢東同志がわが国を訪問するさいには、もちろんひとりではありえませんが、わが党の指導者がおもをするでしょう。そうすれば、いろいろな問題について意見を交換するよい機会がもてることになるでしょう。毛沢東同志は、ソ連人民がどのように働いており、共産主義建設の中で、わが党の綱領を実現する面で、どのような成果をおさめているかを目にすることができるでしょう。

もしも、毛沢東同志がいまのところモスクワにくることができないなら、われわれは、あなた方がのべた、モスクワで、ソ連、中国両党の高級代表会談開催の意見をよるこんでうけいれます。この会談の期日については、あなた方に異存がなければ、われわれはだいたい一九六三年五月十五日ごろに開催したい、と考えています。

われわれは、中国の同志もわれわれとおなじように、やがて中ソ両党の代表がおこなう会談が「各国共産党・労働者党代表者会議をひらくのに必要な準備の段取りである」と考えているのをひじょうにうれしく思います。たしかにこの種の会談は、平等の原則にそむかず、他の兄弟党の利益をそこなわないようにし、会議のよりよき準備と開催に役立つべきであります。この種の会談をおこなわず、また新聞や雑誌などの出版物での公然たる論戦をやめず、自分たちの党内で他の兄弟党にたいする批判をやめないなら、会議開催の準備と、国際共産主義運動の団結の強化という主な目的を達成しようとしても、それはむずかしいと思います。だからこそ、ソ連共産党中央委員会は、ベトナム、インドネシア、イギリス、スウェーデンその他の国の同志が一九六二年のはじめにだした、各国兄弟党会議開催についての提案に賛成するとともに、世界的な共産主義の集会のための活動に有利な局面をうみだし得るような措置を実現しなければならないと強調したのであります。

ソ連共産党中央委員会は、すでに一九六二年二月二十二日付の書簡の中で、「われわれのあいだでの見解のちがう問題についての不必要な論争をやめることと、われわれの意見の相違をやわらげるところか、それを深めるだけの公開的な声明をふたたび発表しない」ことをよびかけました。一九六二年五月三十一日に中国共産党中央委員会におくった書簡の中で、われわれはつぎの

ようにのべました。すなわち「あなた方もはつきり知つていようにわが党は世界共産主義運動の根本問題を集団的に討論することを過去においても現在においても主張しています。ソ連共産党中央委員会は、一九五七年と一九六〇年の各国兄弟党会議の発起人です。この二つの会議はいずれも、国際情勢の大きな変化と、それにおうじて共産主義運動の戦術の決定につながりをもつものです。こんどもわれわれは、各国兄弟党会議開催の提案を完全に支持します」

われわれが有益だと考えたのは、この種の会議を準備するためには、それぞれの兄弟党がみな、国際生活面での新しい現象ならびにわれわれの運動の集団的決議を実現する上での自己の活動をつつこんで全面的に分析できるといふことです。ソ連共産党中央委員会は、この会議は、すでに生じている意見の相違を激化させず、これらの意見の相違の克服を最大限にうながすことができるという、すべての共産主義者が完全に理解できるように関心を表明しました。

最近、兄弟党の多くの指導者は、その言論の中で、つぎのような似かよった見解を公正にしめしました。それは、この会議がひらかれるまで、共産主義運動の中に正常な状況をうみだし、論争を党の同志的な論争として許される範囲内におさめる一連の段取りをとらなければならぬといふことです。あなた方の書簡を読んで、この点については、いまあなた方も同意であることがわかり、このたびの会議が準備の面で、すでにある程度の進展がみられたとみてもよいと思いま

す。  
われわれ両党の討論がすべての兄弟党の問題についてふれたばあい、この討論は初步的なものでしかありえないのは、いうまでもないことであります。一九五七年と一九六〇年の会議がしめしているように、すべての兄弟党が集団的に参加すること、国際共産主義運動のすべての隊列の全面的な経験についてしかるべき考慮をはらうことによつてのみ、国際共産主義運動の路線を順調にとりきめることができます。

われわれは、ソ連、中国の両党代表会談にさいし討論する問題の範囲についてあなた方がだされた意見をくわしく検討しました。これらはみな、ひじょうに重要な問題で、われわれはそれを討論することをのぞみます。

この書簡の中で、われわれもいくつかの原則的問題についてのべてみたいと思えます。これらの問題は兄弟党の注目を中心であり、兄弟党がわれわれの共通の事業のためにたかたかっている中心である、とわれわれはみています。もちろん、これらの問題についてのわれわれの観点をこくくわしくのべるものではありません。われわれは、世界という舞台で自己の政策を実行するさいに、兄弟党との相互関係のうえでわれわれがまもっている原則上重要ないくつかのことについて指摘するだけにとどめるつもりであります。

このようにわれわれの観点をのべることによつて、両党会談のさいに意見を交換する問題の範囲をきめ、現存する意見の相違を克服するうえで助けになるよう、われわれはのぞんでいます。われわれがそうするのは、世界共産主義運動せんたいの思想綱領および宣言と声明に反映されているその共同路線をわれわれがだんこと、一貫して守りとおす決意をもっていることをかさねて強調するためであります。

声明が採択されてこのかたの生活は、その基本的な結論をひとつとして動搖させなかつたどころか、反対に、現代の経験の総括とマルクス・レーニン主義の創造的な発展を基礎として共同でとりきめられた世界共産主義運動の方針の正しさを完全に実証しています。

ソ連共産党の出発点は、偉大な十月社会主義革命によつてスタートした資本主義から社会主義への移行を主な内容とするわれわれの時代は、ふたつの対立する社会体制の闘争の時代であり、社会主義革命と民族解放革命の時代であり、帝国主義が崩壊し、植民地主義体制が消滅する時代であり、ますます多くの人民が社会主義の道をあゆみ、社会主義と共産主義が全世界の範囲にわたつて勝利する時代である、ということです。

世界に形づくられている情勢と、われわれの運動に新たな可能性をきりひらいた国際舞台での階級勢力の分布の変化はいずれも、世界共産主義運動の、現段階におけるその根本的任務に合致



するような総路線を制定するよう要求しています。

第二次世界大戦後、一連のヨーロッパの国々にが社会主義の道をあゆみだし、中国およびアジアの他のいくつかの国では社会主義革命が勝利をおさめて、世界社会主義体制が形づくられています。新しい制度は、人民民主主義諸国で強化され、これらの国々にが経済、政治、文化の面で社会主義の道にそって急テンポで発展するのを保証しています。社会主義共同体は政治、軍事上でかたく団結しています。ソ連およびその他の兄弟国のおさめた成果によつて、世界の力関係は社会主義にとつて有利で、帝国主義にとつて不利な大きな変化を生みだしています。この面で重要な作用をはたしたのは、アメリカによる原子・水素兵器の独占の喪失とソ連の強大な軍事力の確立です。

世界社会主義体制の形成は国際労働者階級とすべての勤労者の歴史的成果です。それは、事実上新しい社会についての人類の理想を体現しています。社会主義諸国の生産の増大と科学技術上の大きな成果によつて、社会主義共同体は、社会主義の成果を確実にまもるだけでなく、全世界人民の平和と安全の強力なとりでとしての経済力と防衛力をうちたてました。

力関係が根本的にかわつたことは、資本主義の全般的危機がさらに深刻化し、そのあらゆる矛盾が尖鋭化していることとつながりがあります。第二次世界大戦がおわつたのち、帝国主義陣営

内の力の分布状態はかわりました。帝国主義の政治的中心と軍事的中心は、その経済的中心によつて、ヨーロッパからアメリカへと移りました。アメリカの独占ブルジョアジーは国際的反動勢力の主な牙城となり、資本主義の救主としての役割をしています。いま、アメリカ帝国主義は国際憲兵としての職責をはたしています。アメリカ帝国主義は軍事ブロック政策を利用して、他の資本主義国をその支配下におこうとつとめています。このことは、フランス、西ドイツ、日本その他資本主義諸大国のアメリカへの反抗をまねいています。世界大戦中に損害をこうむつた資本主義国の経済は立ちなおり、その発展速度はアメリカをしのいでおり、このためヨーロッパの一部の国々には、いままでよりもいつそうアメリカの操縦からのがれようとしてきています。以上のことはすべて、競争と衝突という帝国主義固有の症状をいちだんと悪化させ、新しい症状を誘発して、資本主義体制せんたいを弱体化させています。

帝国主義の反人民的な略奪の本性はかわっていません。しかし、世界社会主義体制の形成とその経済的、軍事的威力の増大によつて、帝国主義が歴史の発展過程に影響力をおよぼす可能性はいちぢるしく小さくなり、一方、社会主義国に反対し、世界の革命運動と民族解放運動に反対するその闘争方式と方法も変わってきています。帝国主義者は社会主義と民族解放運動の力の急速な増大をひじょうにおそれており、自分たちの力を連合してその搾取目的を維持しようと気づちが

いのようにつとめ、たたかうほか、いたるところで社会主義国と民族解放運動の陣地を破壊し、その影響力をそごうとしてやつきになっています。

いまの時代における人類社会の歴史的発展の主な内容と主な方向を左右するものが、帝国主義ではなくて、世界社会主義体制であり、帝国主義に反対し、社会の社会主義的改造をめざすすべての進歩勢力であることはきわめて明らかであります。資本主義と社会主義との矛盾はわれわれの時代の主な矛盾です。平和、民主主義、社会主義の運命は、決定的な度合においてふたつの世界体制のたたかひの結果によつてきまります。同時にまた、世界舞台での力関係はたえず社会主義によつて有利に変化しています。

アジア、アフリカ、ラテンアメリカ人民がおのれの民族と社会の解放をめざすたかひとこの面ですでおさめている成果、資本主義国の労働者階級とすべての勤労者が独占体に反対し、すべての搾取に反対し、日ましに高まる社会の進歩をめざす闘争は、人類の歴史の発展の運命にとつてきわめて大きな意義をもっています。社会主義革命、帝国主義と植民地主義に反対する民族解放革命、人民民主主義革命、広はん農民運動、ファッショその他の暴虐な制度をくつがえそうとする人民大衆のたたかひ、民族の抑圧に抗する一般の民主運動、これらはすべて、いまの時代にひとつに合流して、資本主義の世界に激突し、それをうちくたく革命の奔流と化しています。

世界共産主義運動が新しい条件にもとづいて自分の方針をきめるさい、戦争をおこなう軍事上の技術的手段が質的にすつかりかわつていっているという重要な要因を十分に、まじめに考慮に入れないければなりません。この質的な変化は、空前の破壊力をもつ熱核兵器の出現、蓄積とつながりがあります。軍縮が実現されないかぎり、社会主義共同体は自分の武装力をつねに帝国主義者より優位な地位にたもたなければなりません。われわれは帝国主義者にたいして、もしもかれらが戦争をおこし、武力に訴えて人類のたどるべき道——資本主義の道かそれとも社会主義の道にそつて発展するかの問題を解決しようとするなら、それは最後の戦争となり、この戦争のなかで帝国主義が最後の粉砕されることを忘れないようにさせなければなりません。

当面の条件のもとで、平和と社会主義をめざすすべての戦士の義務は、社会主義の勝利にとつて有利な可能性を最大限に利用して、帝国主義が世界戦争をおこすのを許さないことでありま

す。

世界舞台での階級勢力の分布状況についての正しい分析と二回にわたるモスクワ会議で定められた正しいマルクス・レーニン主義の方針は、各国の兄弟党に世界社会主義体制を發展させるうえで、大きな成果をあげさせ、資本主義国での階級的革命闘争と民族解放運動の展開をうながしました。

世界の発展過程におよぼす社会主義体制の影響力はいよいよ増大しています。いま、全世界の革命の過程は、社会主義諸国での新しい生活という手本の大きな力の直接の影響をうけて発展しています。社会主義と共産主義の建設においてわれわれがおさめている成果がますます大きく、ますます多くなればなるほど、共産主義の思想はいよいよスムーズに深く広はん人民大衆の脳裏にはいり、そのところにきざまれてゆくでしょう。したがって、全世界にわたる社会主義の勝利を早めたいとねがうものはすべて、まず偉大な社会主義共同体とその経済的威力とをつよめることに関心をもち、自国の人民の生活水準を高め、科学、技術、文化を発展させ、社会主義共同体の統一と団結の強化につとめ、その国際的威信をたかめるように心がけなければなりません。これは明らかなことです。モスクワ会議の声明は、社会主義諸国のマルクス・レーニン主義政党と人民に、国際労働運動をまえにして社会主義と共産主義を成功裏にきずきあげてゆく責任を負わせています。

われわれ各国の兄弟党と人民は、たえず世界社会主義体制をつよめており、これによって国際労働者階級、すべての勤労者および解放運動全体が平和、民主主義、社会主義の利益にもとづき現代における根本問題の解決をめざしてすすめている偉大な事業にたいし、それぞれ貢献しているのです。

いま世界の舞台での力関係によって、社会主義諸国とすべての平和愛好勢力は、新しい世界戦争を防止し、各国人民の平和と安全を保障するという、まったく現実的な任務を歴史上はじめて提起することができるようになりました。

モスクワ声明が採択されたからのこの数年間に、この論点の正しさが完全に証明されています。侵略勢力は人類を壊滅的な熱核戦争の深淵につき落とすことができませんでした。このことは、社会主義諸国がその威力を増強し、つねにかかわらず平和を愛する対外政策をとってきたため重要な結果であります。この政策はいよいよ何億何千万の人民にみとめられ、支持されており、帝国主義の侵略と戦争政策をしのいで優位をしめつつあるのです。

すべてのマルクス主義者は、つぎつぎに陣地を失った帝国主義が各国人民への支配をたもち、失った陣地をとりもどそうとあらゆる手段に訴えていることについて、すこしも疑いをもつていません。いま、帝国主義者は、社会主義諸国と世界の解放運動に抗するため、史上最大の国際的結託をおこなっています。帝国主義者が世界戦争をおこそうとしないなどは、もちろん、保証できません。この危険を共産主義者はつきりとみてとらなければなりません。

しかし、侵略者がいまの条件のもとでおかれている境遇は、第二次世界大戦前にかれらがおかれていた境遇とはまったくちがうし、とりわけ、第一次世界大戦前にかれらがおかれていた境遇

とはちがつています。いぜんの戦争の結果は、一般的にいつて、いくつかの資本主義国が他のいくつかの資本主義国に勝つても、敗戦国はひきつづき生存し、ある期間たてばまた力をとりもどすし、ふたたび侵略をはじめることさえありました。ドイツの例がそのよき証明であります。熱核戦争は、そうした前途をどのような侵略者にもあたえることはありえません。帝国主義者は、このことを念頭におかないわけにはいかないのです。反撃をおそれ、報復をおそれること——これは帝国主義者が世界戦争をおこすのをおさえるでしょう。社会主義共同体がこれほどまでに強大になつたので、帝国主義は、もはやいぜんのように自分の条件を各国人民におしつけ、自分の意志を各国人民におしつけることができなくなりしました。これが国際労働者階級と各国人民がおさめた歴史的な意義をもつ成果であります。

帝国主義はその略奪的本性によつて、戦争に訴えて国際舞台での矛盾を解決する意図をすてることができません。ところが、いま一面では、かれらとしても、自分が破壊の危険にみまわれることを考えずに世界熱核戦争をおこすわけにはゆきません。

帝国主義が人類をおびやかすためにおこなう世界戦争は、さけられない宿命的なものではありません。社会主義の力がいよいよ帝国主義の力をしのぎ、平和勢力がますます戦争勢力をしのぐようになれば、社会主義が地球上で完全に勝利をおさめるまえ、世界の一部の地区に資本主義が

存在する状況下にあつても、社会生活から世界戦争を排除するという現実的な可能性はあらわれ  
ます。

もちろん、この戦争をふせぐには、全力をあげて社会主義体制をさらに強化しなければなりませんし、国際労働者階級のあらゆる力を結集し、民族解放運動と手を結び、あらゆる民主的勢力と手を結ばなければなりません。社会主義の利益を尊重し、平和の利益を尊重するものはすべて、必要なあらゆる努力をつくして世界反動派の犯罪的な陰謀をうちくだかなければならず、かれらが熱核戦争をおこして何億という人びとを墓場へはこびさるのを許してはなりません。熱核戦争が全人類と、社会主義の事業にもたらすさけられぬ結果についてはつきりした予想は、マルクス・レーニン主義者に、われわれのあらゆる力をつくして新しい世界的衝突をふせぐといひさせまつた任務を提起しているのです。

ソ連共産党中央委員会は、「世界がふたつの体制にわかれている状況のもとでは、国際関係における唯一の正しい賢明な原則はウ・イ・レーニンが提起した、社会制度の異なる諸国の平和共存の原則である。この原則は、一九五七年のモスクワ宣言と平和のよびかけ、ソ連共産党第二十回大会と第二十一回大会の決議、および他の共産党・労働者党の文献のなかでさらに発展させられた」という一九六〇年の声明の主張にあくまでしたがうものであります。

帝国主義と妥協なきたたかいをすすめるという精神で偉大なレーニンによつて教育されたわが党は、資本主義が死にのぞんでもなお人類に数かぎりない災難をもたらすであろうというレーニンの警告を銘記しています。ソ連は経済の発展に大きな力をそそぐとともに、これを土台として自己の国防を改善し、軍事的威力を増強し、武装力をつねに構えある状態にしています。しかし、過去においても将来においても、われわれがいよいよ増強されるわが国の威力を利用する目的は、なんびとをも脅かすのでもなければ、戦争熱をおおりにたてるのでもなく、平和をかため、新しい世界戦争をふせぎ、自国と他の社会主義国をまもることにあります。

平和共存政策は、すべての国の人民の根本的利益に合致するものであり、社会主義陣地の強化に役立ち、社会主義国の国際的影響力の増大、共産主義者の威信と影響力の強化に役立つものです。

平和共存は、社会主義イデオロギーとブルジョア・イデオロギーとの調和を意味するものではありません。この道をたどれば、マルクス・レーニン主義を放棄し、社会主義建設の事業をさまたげることになります。ブルジョア・イデオロギーはトロイの木馬の一種であり、帝国主義はつねにそれを共産主義運動と労働運動の隊列におしこもうとしています。社会制度の異なる諸国の平和共存には、ふたつの社会体制のあいだのいささかもゆるめない思想上、政治上、経済上の闘

争が予想され、資本主義体制の国ぐにの勤労者がおこなう階級闘争——その中には、人民が必要とみとめたばあいの武力闘争がふくまれる——が予想され、植民地および従属国の人民のためならず発展する民族解放運動が予想されます。

事実が立証しているように、世界戦争を防止するためのたたかいは、世界共産主義運動と民族解放運動の力をすこしも束縛せず、それとは反対に、きわめて広はん人民大衆を共産主義者のまわりに結集させています。ほかならぬ社会制度の異なる諸国の平和共存という状況のもとで、キューバが社会主義革命をおこない、アルジェリア人民が民族の独立をかちとり、四〇余の国が民族の独立を獲得し、各兄弟党が大きく成長をとげ、世界共産主義運動の影響力が増大したのであります。

社会主義諸国は、平和共存の形勢を利用して、資本主義との経済競争でいよいよ多くの成果をおさめています。われわれの敵は、われわれとの競争で勝利をつかむのが困難であることを知っています。かれらは、社会主義国の経済発展の急スピードに対応するすべがなく、社会主義国の手本が資本主義に抑圧されている人民のこころをひきつけてゆくを目的のままにして、なんともしやうがないのであります。

社会主義共同体の経済が発展するにつれて、社会主義の優越性と、勤労者が資本主義の条件の

もとよりはるかに多くの物質的、精神的な富をうる可能性は、ますますはつきりとあらわれてくるでしょう。社会主義諸国人民の生活水準の向上は、すべての資本主義国の労働者階級にとつて、きわめて大きな魅力になっています。社会主義共同体の成果は、資本主義国における階級闘争の展開と労働者階級が資本主義にうち勝つうえでの促進剤となり、革命化の要因となるでしょう。

すでに社会主義の道をあゆんでいる各国人民は、過去がのこした、それぞれにことなる水準をもった経済・文化をうけついでています。しかし、そうはいふものの、社会主義は強大な生産力を激発しています。ソ連および人民民主主義諸国がその点での例であります。経済の発展では、ソ連はすでにヨーロッパの高度に発達した資本主義国をしのいで、世界第二位をしめており、そして、ちかいつ将来には世界第一位をしめるでしょう。その他の社会主義国もまた、きわめて大きな成果をあげています。各国人民をして急速に立ちおくれた状態をとりのぞかせ、わりあい発達した国に追いつかせるほか、これらの国ぐにとひとつの隊列のなかで共産主義をきずきあげるためにたたかうことができるほど社会主義は進歩的な制度であります。

これらの事柄はすべて、各国人民をふるいたたせており、いまかれらがおかれている歴史の発展の水準がどうであっても、社会主義の道をあゆむことができますし、この道によつて成果をあげられるとかれらに信じさせています。各国人民が新しい生活へ前進するのを助けるのは、社会主義建設についての世界的経験の中からもつともよいものをえらぶことができ、社会主義建設の経験の中の肯定的な面と否定的な面とを考慮できるということです。

社会主義諸国の生産力がいよいよ急テンポに発展し、その経済力がいよいよ増大すれば、平和の利益と社会主義の完全な勝利の利益をはかる社会主義の共同体の、歴史せんたいの発展の速度と方向にもたらす影響力もまた、ますますつよいものになります。

いまの時代には、ますます多くの国が社会主義へ移行するうえでの有利な国際的条件と国内的条件をもっていること、これがわが党の出発点であります。このことは発達した資本主義国であれ、つい最近民族の独立をかちとつた国であれ、すべて同様に言えることです。

世界の革命のプロセスはますます拡大し、世界の各大陸をまきこんでいます。発達した資本主義国の労働者階級のたたかいと民族解放運動は密接に結びつき、互いに助けあっています。社会発展のあゆみは、どの国でおこなわれている革命闘争をも、共通の主な敵——帝国主義、独占ブルジョアジーにその矛先をむけさせています。

全世界のマルクス・レーニン主義の党は共通の最終目標をもっています。つまり、あらゆる力を動員して、労働者と勤労農民による権力奪取のためにたたかい、社会主義と共産主義をうちた

てるといふことです。どの共産党も自己のたたかひの戦術・路線をきめるさいには、世界共産主義運動せんたいの経験を念頭におかないわけにはゆきませんし、われわれの運動せんたいの利益、目標、任務およびこの運動の当面の総路線に注意しないわけにはゆきません。

しかしながら、それぞれの国が社会主義をめざすたかひの形式と方法をさだめるのは、その国の労働者階級と共産主義の前衛の内部の問題です。いずれの兄弟党にしても、その人数の多寡、経験と威信のいかんをとわず、他の国の革命闘争の戦術や形式、方法をきめることはできません。革命はもつとも広はん人民大衆の事業です。具体的な情勢を正しく分析し、力関係を正確に見積もることが、革命のもつとも重要な条件のひとつです。客観的な条件と主観的な条件が熟したときには、社会主義革命の勝利をめざす革命的な大衆の激流をおさえることはできません。もしもそれをおさえるなら、それは死にひとしいことです。だが、条件が熟していなかつたなら、人為的に革命をおしすすめてはなりません。革命的階級闘争の経験は、時機の熟さぬ蜂起はかならず失敗する、と教えています。共産主義者が勤労者に赤旗をかかげよとよびかけるのは、世界でもつともよい生活をめざすたかひに勝利するためであり、たとえそれが英雄的な死であつても、死ぬためにやるものではありません。革命的なたかひのなかで必要とする英雄主義、自己犠牲の精神はそれ自身にとつて必要なのではなくて、偉大な社会主義思想の勝利をもち

とるために必要なのです。

ソ連共産党は、すべての国の革命的な労働者階級と勤労者が自分たちの共産主義の前衛にみちびかれながら、革命情勢をうまく利用して階級の敵に致命的な打撃をくわえ、新しい社会制度をうちたてるのを、過去においても将来においても歓迎するものです。

資本主義国の共産党の戦術と政策は、本質的にいつて共通の特徴をもっています。この特徴は、資本主義の全般的危機という当面の段階および国際舞台に形づくられている力関係とつながっています。国家独占資本主義の発展によつて、資本主義社会ではかつて生じた矛盾が深刻化しているばかりか、新しい矛盾が生じています。国家独占資本主義は、帝国主義の国内での社会的基盤をさらにせばめ、権力をひと握りのもつとも大きな独占資本家の手に集中させています。これが、いまひとつの側に、独占体に反対する一本にまとまった大きな流れをうみだしています。その中には労働者階級、農民、プロレタリアット、働く知識人、資本主義社会のなかの、独占体の独裁からのがれ、搾取からのがれて社会主義への移行に関心をもつ他の一部の階層がふくまれています。

われわれの時代におけるさまざま民主運動、たとえば全般的平和をめざし、世界の熱核による災害をふせぎとめ、民族の主権をまもり、民主主義をまもつてファシズムの攻撃に反対し、土

地改革の実施をめざすなどのたたかひ、ならびに、文化をまもる人道主義的運動その他の運動のもつ意義はおしなべて急激に増大しています。

わが党は完全にレーニン主義の立場にたち、声明の立場に立っています。つまり、社会主義革命はかならずしも戦争とむすびついていゝとはかぎりません。もしも世界戦争が勝利の革命をはらんでいゝとすれば、戦争がなくとも、革命はやはりまったく可能であります。

もしも共産主義者が社会主義革命の勝利を世界大戦とむすびつけるなら、社会主義にたいする大衆の共鳴をかちとれないだけでなく、かれらを社会主義から疎遠させることになるでしょう。おそるべきかゝい滅的な結果をはらんでおこなわれる戦争の現代的手段という条件のもとでは、そうしたよびかけは、われわれの敵に有利をもちたすだけではありません。

労働者階級とその前衛——マルクス・レーニン主義政党は、つとめて内戦を経ずに平和な方法により、社会主義革命の実現をかちとりまゝす。この可能性を実現することは、労働者階級とすべの人民の利益に合致し、自国の民族全体の利益に合致します。それと同時に、革命発展の道えらぶことは、労働者階級だけによつてきまるものではありません。もしも搾取階級が人民に暴力をくわえるなら、労働者階級は平和的でない道をとつて権力を奪取しなければなりません。すべは具体的な条件によつてきまるのであり、国内および世界舞台での階級勢力の分布状況によつてきまるのです。

資本主義から社会主義への移行は、どのような形で実現されるにせよ、社会主義革命とよまな形態のプロレタリアート独裁を経てはじめて可能となります。ソ連共産党は、資本主義國での共産主義者を先頭とする労働者階級の献身的なたたかひを高く評価するとともに、かれらにあらゆる援助と支持をあたえることを自分たちの義務だと考えています。

わが党は、民族解放運動を、世界の革命のプロセスを形づくる一部分であり、帝国主義陣線を破壊する強大な力であるとみなしています。いぜんの植民地の人民は、いまでは立ちあがって、独り立ちで歴史的な創造をおこなうとともに、自分たちの民族経済と文化を高める道をさがしとめています。社会主義体制の力の増大は、抑圧されている人民の解放と経済的独立の獲得を積極的にうながし、民族解放運動のいつそこの発展と深まりをうながし、あらゆる形の新旧植民地主義に反対する民族解放運動のたたかひをうながしています。

民族解放運動は、植民地制度をほろぼす最終の段階にはいつています。いましばらくはなお植民地主義者のくびきのもとにあえいでいるすべての人民が自由と独立を獲得する日は、もうちかいです。解放をかちとつた各民族の人民がただちに直面するのは、政治上の独立をかため、経済および文化面での立ちおくれをなくし、いろいろな形で帝国主義への依存をなくすことであ



ります。

植民地主義の抑圧からぬけてた国の民族復興のさしせまった課題は、帝国主義と封建主義のなごりとあくまでたたかひ抜くことを前提として、自民族のあらゆる愛国勢力——労働者階級、農民、民族ブルジョアジー、民主的知識人を民族統一戦線に結集させてのみ、はじめて順調に実現されます。

民族の解放をめざしてたかつかつて人民とすでに政治上の独立をかちとつた人民は、もはや帝国主義の予備軍でなくなつたか、またはやがて帝国主義の予備軍でなくなります。かれらは、社会主義国とあらゆる進歩的勢力に支持されて、ますます帝国主義国と帝国主義の同盟にたえまない失敗をなめさせるでしょう。

年若い民族国家は、ふたつの世界的社会体制の競争という条件のもとで、発展を上げています。こうした状況は、かれらの政治および経済の発展にたいして、また、かれらが将来あゆもうとする道をえらぶことにたいして、きわめて大きな影響力をもっています。つい最近、民族の解放をかちとつた国は、社会主義国家の体制にもくわつていませんし、資本主義国家の体制にもくわつていませんが、そのなかの圧倒的多数は、そこに特別な地位をしめてはいますが、まだ世界資本主義経済の軌道からぬけていません。これは世界でいままなお資本主義の独占体か

ら搾取をうけている一部なのです。

いま、年若い主権国が政治上の独立をかちとつてから、もつとも重要な地位をしめることは、帝国主義に反対し、徹底的な民族の復興をかちとり、経済上の独立をかちとるたたかひであります。後進国が完全な独立を獲得することは、帝国主義に新たな、重大な弱体化をもたらすこととなります。なぜなら、こうした状況のもとでは、いまの略奪的で不平等な国際的分業の全体制が粉碎され、「世界の農村」にたいする資本主義の独占体がくわえている経済的搾取の土台がうちくだかれるにちがいないからです。社会主義体制からの効果的な援助にたよつて後進国の独立した民族経済の発展は、帝国主義に新たな痛撃をあたえるでしょう。

独立をめざし、独立を強化するたたかひでは、帝国主義に反対することをねがっている民族のあらゆる力を結集するために全力をそそがなければなりません。民族ブルジョアジーの右翼は、極力、独立をかちとつたのちでの自分たちの支配的地位をかためようとして、ある時期には、反動政権を樹立して共産主義者やその他の民主的な人びとを迫害しますが、しかし、こうした政権は進歩をさまたげ、さし迫つて解決すべき民族的課題——まず経済上の独立の獲得と生産力の発展をさまたげているので、その寿命は長つづきしません。だからこそ、帝国主義から積極的な支持をえたところで、この政権は人民大衆のたたかひによつて一掃されるにちがありません。

ソ連共産党は、植民地主義のくびきを脱した人民および半植民地人民との兄弟としての同盟を、自分たちの国際政策の礎石のひとつとみなしています。わが党は、民族の独立をめざし、民族の独立をかためる道をすすむすべての人民を助け、植民地主義体制を完全になくすためにたにかうすべての人民を助けることを、自己の国際的義務だと考えています。ソ連は過去においても現在においても、おのれの自由をめざす各国人民の神聖な戦争を支持し、民族解放運動には道義上、経済上、軍事上、政治上の強力な支持をあたえています。

アルジェリア人民がフランス植民地主義者に反対するたたかいをすすめていたとき、ソ連人民はきわめて大きな支援をかれらにあたえました。イエメン人民が自国の奴隷制度に抗して立ちあがったとき、われわれは誰よりも早くかれらに援助の手をさしのべました。インドネシア人民が西イリアン解放と、アメリカ帝国主義者を後盾とするオランダ帝国主義者反対のためのたたかいをすすめていたさい、われわれは全面的な援助にあたえました。われわれは、インドネシア人民が北カリマンタン解放のためにすすめているたたかいを歓迎するものです。

新旧植民地主義者は、東南アジア諸国人民の解放運動に陰謀と詭計の網をはりめぐらしています。われわれの同情と支持は、自民族の自由と独立をめざす人民の側に終始そそがれています。南ベトナムと南朝鮮の人民が、アメリカ帝国主義者とそのカイライのどのようなあがきにもかか

わらず、かならず勝利をおさめ、祖国の土地の統一をとりもどすものと、われわれはかたく信じています。

わが党は革命の輸出に反対するとともに、反革命の輸出をおさえるために、過去においても現在においても、あらゆる努力をはらっています。われわれは、現代における三つの偉大な革命勢力——社会主義と共産主義を建設している各国人民、国際革命労働運動、民族解放運動が互につながりをたもち、統一行動をとることが、帝国主義に反対する各国人民のたたかいの基礎であり、かれらが勝利をおさめる保証であると確信しています。

ここ数年らいの世界発展の全過程は、共産主義運動の路線の正しさを完全に証明しており、この路線は実践のなかでいちじるしい成果をもたらしました。この路線の実現によって、帝国主義に反対し、平和、民族の独立、社会主義をめざしてたたかう勢力は新たな成果をおさめました。ソ連共産党は、この路線を徹底的に、あくまでつらぬきとおすことを自己の義務とみなしています。

われわれは、この路線をあらためるどのような理由もないとたく信じています。

ソ連共産党中央委員会はまた、各国共産党・労働者党代表者会議の準備と開催にさいし、この数年らひ、宣言と声明にきめられた世界共産主義運動の路線が実際の生活でゆたかにされた新し

い点について意見を交換することが有益だと考えています。

親愛な同志のみなさん、あなた方は書簡の中で、共産主義運動の隊列の統一と社会主義国の団結をつよめることがわれわれのあらゆる成果の裏付けだと、正しく指摘されました。さいきんの一時期、ソ連共産党は自党の数回の大会や共産党の国際会議で、マルクス・レーニン主義政党内の相互関係の原則についての自分たちの理解をたびたび表明しました。われわれは、共産主義運動や社会主義共同体において、すべての共産党、労働者党のあいだ、すべての社会主義国のあいだは過去も現在もまったく平等であることを、全世界にむかつてつよく指摘しました。共産主義運動の中では、「上級の党」とか「下級の党」とかは存在しません。しかもこれ以外にはありえないのです。いずれの党が首位をしめるとか、指導権をにぎるといった表現は、国際共産主義運動と労働運動を破壊するほかに、何らの利点をも決してもたらずものではありません。すべての共産党は独立、平等であり、共産主義運動の運命およびその勝利と挫折について責任を負っており、プロレタリア国際主義と相互援助を基礎としてかれらのあいだの関係をうちたてなければなりません。

われわれはまた、プロレタリア国際主義は、その大小をとわずすべての党にたいして、おなじ要求をだし、誰をも例外にしないという点を出発点としています。すべての兄弟党は自分の活動

をマルクス・レーニン主義の原則を基礎としておこない、社会主義国の団結、世界共産主義運動全体の団結、労働運動全体の団結をつよめるうえで利益に合致させるよう、おしなべて関心をもちなければなりません。

世界社会主義体制の形成と発展は、マルクス・レーニン主義政党内のあいだにおける正しい相互関係の問題に特別な意義をあたえています。社会主義国の共産党、労働者党は政権をにぎっている党で、国家の運命と自国民の運命に責任を負っています。こうした条件のもとで、党と党とのあいだの相互関係についてのマルクス・レーニン主義の原則を破壊することは、党の利益にふれるばかりでなく、広はんな人民大衆の利益にもふれることとなります。

ソ連共産党は、われわれの事業の最高の利益にもとづき、スターリンにたいする個人迷信がもたらした悪結果をとりのぞきましたし、兄弟党の関係における平等と社会主義国の主権を尊重するレーニン主義の原則を完全に回復するためにあらゆる努力をはらいました。このことは、社会主義共同体ぜんたいの団結をつよめるうえに、きわめて大きなよき役割をはたしました。いまだは有利な局面ができており、われわれの友宜は、平等、各国の主権尊重、相互援助、同志的な協力、どの国もすすんで自分の国際的義務を完成することを基礎として強化されています。われわれはまた、社会主義的平等が、集団に参加して共通の路線をさだめるうえでの同等の権利をもつ

ということにあるだけでなく、社会主義諸国の兄弟党が共同体せんとしたいの運命にたいして同等の責任を負うものであるということにもあることを、とくに指摘したいと思います。

兄弟党のモスクワ会議の声明は、資本主義から脱した国々にはもつとも緊密な同盟をむすんで社会主義と共産主義を建設するため自分たちの努力をむすびつけなければならぬという原理をとくに指摘しました。社会主義体制全体の利益と民族の利益は調和をたもつてひとつにむすびつけられるものです。いずれの国でも真の団結と相互援助を基礎として他の社会主義国ともつとも緊密に協力してこそ、はじめて自己の民族的課題をもつともりつぱに解決できることを、生活が立証しています。

われわれの団結、われわれの一致した行動は、自然発生的なものではありません。それは客観的な必要によつてうながされたものであり、マルクス・レーニン主義政党の意識的な活動と目的のはつきりした国際主義的政策の結果であり、それがわれわれの隊列の団結にうまず関心をもっている結果であります。

社会主義国の相互関係、国内建設と国際共産主義運動についてのあれこれの問題でちがった理解が生じ、われわれの協力の形式と方法についてちがった理解が生じているという状況を、われわれが目をつぶってみようとしません。そうしたことはありうるのです。なぜな

ら、世界社会主義体制の諸国は新しい社会建設のそれぞれにちがった段階におかれていますし、対外関係を発展させるうえでのかれらの経験もまったくおなじではないからであります。また、つぎのことも除外することはできません、つまり、あれこれの兄弟党のなかで、マルクス・レーニン主義の個々の問題の解決にたいする異なる態度が、意見の相違をきたす原因になることもありうるのです。民族独自の特徴のもつ役割を誇張すれば、マルクス・レーニン主義からの逸脱をまねくこととなります。民族の特徴を軽視すれば、生活からはなれ、大衆からはなれて社会主義事業に損害をあたえることとなります。

こうした事柄はすべて、われわれが原則的な立場から出発して、われわれの共同の事業に最小限の代価を支払わせるという前提のもとに、すでに生じた意見の相違を解決できるような手段と方法をとらきめることについてたえず関心をもつよう、われわれを鞭うっています。

われわれ共産主義者はたがいに論争して差し支えありません。だが、どのような状況のもとにおいても、われわれの神聖な義務は、社会主義共同体のすべての人民と緊密な団結をたもつという精神をもつて自国の人民を教育するということです。共産主義者は、自国を愛するだけでなく、社会主義共同体を愛し、すべての人民を愛するよう、人民を育てる責任があり、またいづれの社会主義国にせよ、そこに生活しているすべてのものに、全世界の勤労者にたいしてかれらが

おうべき兄弟としての義務を知るよう教育する責任があります。そうしなければ、共産主義者としての第一のいましめを履行しないこととなります。このいましめは、マルクス・レーニン主義諸党の団結、社会主義を建設する諸国人民の団結を要求し、ひとみをまもるのと同じようにわれわれの団結をまもるよう要求しています。

思想上、戦術上での意見の相違は、どのような状況のもとでも、それを民族主義的な感情や偏見をあまりたて、社会主義諸国人民の相互の不信や紛争をあまりたててみるのみならずとして利用されてはなりません。わが国の各民族人民のあいだに、兄弟である中国人民やその他の国の人民にたいする悪感情のたねをまくような段取りをもソ連共産党がこれまででもとらなかつたし、こんごもとらないことを、われわれは十二分の責任をもって声明します。それとは反対に、わが党はあらゆる状況のもとで、つねにかかわらずだんこと国際主義的思想を宣伝し、社会主義諸国の人民、全世界各国の人民との熱烈な友好的思想を宣伝しています。われわれは、この点を強調するのは重要なことであると考えるとともに、この立場に賛成するよう中国共産党中央委員会に希望します。

国際共産主義運動、労働運動、解放運動の中では、共同の努力をむすびつけ、各国人民を立ちあがらせて帝国主義反対のたたかいをすすめる必要があります。マルクスとエンゲルスによつ

て発せられた「万国のプロレタリア、団結せよ」という戦闘的なよびかけが意味しているのは、この団結の基礎が帝国主義に反対する階級的な団結であり、民族的区別や人種的または地理的原則ではありません。あれこれの州——アフリカ州、アジア州、ラテンアメリカ州またはヨーロッパ州のいずれにせよ——に属するという原則にだけとづき、大衆を結集させて帝国主義に反対するのは、いまたかかつている各国の人民に損害をあたえることとなります。それは団結ではなくて、実際には帝国主義反対の統一戦線の力をバラバラにすることです。

世界共産主義運動の力はマルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義への忠実ということにあります。ソ連共産党は、マルクス・レーニン主義にそむくことに反対し、あらゆる日和見主義に反対するたたかいを過去においてもおこないましたし、こんごもやはりおこなうでしょう。われわれは、あくまで一九六〇年の声明の論点にしたがうものです。これらの論点は、右翼日和見主義にも左翼日和見主義にも反対するというふたつの戦線でのたたかいをおこなわなければならぬと指摘しています。声明は、世界共産主義運動における主な危険は修正主義であると正しく指摘すると同時に、セクト主義と教条主義に反対するだんことなる闘いをすすめるなければならず、もしもセクト主義と教条主義にたいして終始一貫してたたかわないなら、それらもまた、ある党のあれこれの発展段階での主な危険になる可能性がある、と指摘しています。

わが党は、マルクス・レーニン主義の原則を基礎として世界共産主義運動の団結をつよめる利益にもとづき、こんごもだんこたるたたかいをすすめて、右翼日和見主義に反対するとともに、いまのところその危険がけつして修正主義より小さくはない左翼日和見主義にも反対するでありましよう。こんご、われわれは、共産主義の理論および戦術の原則的な根本問題についてはやはり妥協せず、修正主義とセクト主義に反対するたたかいをすすめると同時に、がまんづよい同志的な討論を通じて、すでにあらわれた、理解のちがう問題をはつきりさせ、これによつて、われわれの団結をさまたげるあらゆる積みかさねられてきたじやまものを道から一掃することに努力をおしまないでありましよう。これについてのわれわれの出発点は、各兄弟党および共産主義運動の国際会議がマルクス・レーニン主義の原則的問題であれこれの誤りを批判するにあたって、その任務はその誤りの危険性を指摘して誤りを正すのを助けることであつて、その誤りを永久に固定させるのではない、ということでもあります。われわれはできるだけ全力をつくして団結をうながすのであつて、革命勢力をバラバラにしたり、われわれの運動のあれこれの隊列を分割したりすることではありません。共産主義者がマルクス・レーニン主義の理論上の原則問題で譲歩を許さないのは、いうまでもありません。

国際主義的政党としてのソ連共産党は、世界のあらゆる国のマルクス・レーニン主義政党の闘争経験をくわしく検討しています。われわれは、労働者階級とその革命的前衛——フランス、イタリア、アメリカ、イギリスその他の資本主義国の共産党、ならびに帝国主義の独占体の専横に反対し、植民地主義と新しい植民地主義に抗して、民族の自由と社会の自由をめざして雄々しく奮闘をつづけているアツア、アフリカ、ラテンアメリカの共産党のたたかいを高く評価しています。

各共産党はすでに影響力をもつ各民族の力に成長しており、自国人民の仕合わせをちとる戦士の先進的な隊列に成長しています。反動派がたえず共産党に打撃をくわえ、かれらの意志をくじこうとしているのは、けつして偶然のことではありません。共産主義運動に反対するたたかいで、反動派はいわゆる「モスクワの手」というまことにふるくさいデマを利用して、共産党は民族勢力ではなく、他国の政策を遂行するものだとか、他国の道具だなどといっています。帝国主義者がこのようなことをするのは悪意をいだいており、そのねらいは共産党の日ましに増大する影響力に反対し、人民大衆に共産党不信任をおこさせ、共産主義者にたいする警察の弾圧を弁護することにあります。

だが、すべての良心的な人びとは、共産党こそ民族の利益をほんとうに体现し、まもるものであり、人民の仕合わせをめざすたたかいのなかで祖国への熱愛とプロレタリア国際主義をひとつ

にむすびつけた忠実な愛国者だということを知っています。ソ連共産党は、資本主義国での自分の兄弟たちの雄々しいたたかいかいをつよく支持し、かれらとの国際主義的団結をつよめることが自分の職責だと考えています。

以上は、この手紙でとりあげる必要のあるとわれわれが考えた、現在におけるもつとも重要な原則的問題、国際共産主義運動の戦略、戦術のもつとも重要な原則的問題についてのわれわれの概括的な意見であります。

われわれは、各兄弟党の宣言と声明にもらわれている国際共産主義運動の当面の方針が唯一の正しいものだとかたく信じていますし、また、やがて開催されるソ連、中国両党代表の会談で、つきのようなもつともさし迫った問題を討論するのが適切だと考えています。

① 世界社会主義体制の威力をさらにつよめ、それを人類社会発展の決定的な要因にかえる——これがわれわれの時代の主な特徴である——ためにたたかう問題。われわれは、どうすれば社会主義諸国が資本主義との平和的経済競争に勝利するのをより早く、よりよく保証できるかについてともに討議することができる。

② 平和ならびに平和共存のためのたたかひの問題。すべての平和愛好勢力の努力をむすびつけて新しい世界熱核戦争の防止をめざす必要性。平和擁護者のもつとも広はんな統一戦線の結

成と強化。帝国主義の反動的本質をあげき、警戒心を高め、広はんな人民大衆を立ちあげらせて、帝国主義者による新しい世界戦争の準備に反対するたたかひをすすめ、帝国主義者の侵略陰謀をうちくだけき、反動派と戦争勢力を孤立させる。国際関係のなかで、社会制度の異なる諸国の平和共存というレーニン主義の原則を確立する。全般的かつ完全な軍縮のため、第二次世界大戦のなごりを一掃するためにたたかう。

③ アメリカをかしらとする帝国主義に反対するたたかひの問題。われわれの事業の利益のために、資本主義の陣地の弱まりを利用し、世界資本主義経済体制ぜんたいがますます不安定になる状態を利用し、資本主義の矛盾の尖鋭化、なによりもますます労働と資本との矛盾を利用し、ブルジョア・イデオロギーと政治上の深刻な危機を利用する。資本主義国の勤労者が独占体に反対し、自分たちの社会的解放をめざし、人間による人間の搾取という現象をなくし、また、民主的権利と自由を拡大するために各国人民がおこなっている階級闘争と革命闘争を支持する。

④ 民族解放運動の問題。各国人民の民族解放闘争を支持し、それを大いに展開する。植民地主義とさまざまな形の新植民地主義を完全に、徹底的になくすためにたたかう。植民地主義に反対する人民およびすでに自民族の解放をかちとつた国を支持する。これらの国と経済、文化上の協力を発展させる。

⑤ 社会主義共同体および共産主義運動の隊列の統一と団結をつよめる問題。われわれの時代でもっとも影響力をもつ政治的勢力——国際共産主義運動の団結に全力をつくすこと。とりわけ、帝國主義反動派が手をむすんで共産主義に反対しているさいにはなおさらそうしなければならない。この団結を破壊するどのような行動も許されない。いずれの兄弟党も団結の精神にもとづいて、共同できめた評価と結論をまもるべきである。修正主義と教条主義に反対するたまたかいつづけることは、マルクス・レーニン主義の純潔をまもり、マルクス・レーニン主義を創造的に発展させ、共産主義運動がさらに成果をあげるうえに、欠くことのできない条件である。プロレタリア国際主義、相互援助、相互支持の原則を基礎として、各兄弟党間の相互関係を発展させる。帝國主義と反動派に反対する思想闘争と政治闘争のための共同措置をとりきめる。

話し合いにさいしては、あなた方が書簡の中で提起したすべての問題を討議し、双方が興味をもつところの、モスクワ会議の決議を実現するためのたまたかという課題がうんだ問題を討議することができます。ソ連と中国の団結をつよめる問題についての討論は大きな意義をもつでしょう。

あなた方は書簡のなかでアルバニア問題とユーゴスラビア問題にふれています。すでにわれわれがあなた方への書簡でのべましたように、これらの問題は原則的問題であります。しかしそ

れは、われわれが会談のさいに討論しなければならぬ現代の主な問題をおおいかくすこととはできないし、またそうすべきでもありません。

わが党はアルバニアの指導者の分裂行為を非難するとともに、アルバニア労働党とソ連共産党その他の兄弟党との関係を正常化するために必要な段取りをいちどならずとつてきました。アルバニア労働党の指導者が最近わが党とソ連人民への中傷的な攻撃をいちどならずおこない、それをつづけているにもかかわらず、われわれはやはり最高の利益にもとづいて、ソ連共産党とアルバニア労働党の関係を改善する考え方をすてていません。今年の二月のすえに、ソ連共産党中央委員会はまたしても主动性をしめし、われわれ両党代表者による両党会談開催についての提案をアルバニア労働党中央委員会にいたしました。しかし、われわれのこの同志的な段取りも、アルバニアの指導者側からしかるべき反応をえられませんでした。アルバニア労働党の指導者は、両党会談の開催にかんするソ連共産党中央委員会の書簡をうけいれる必要すらないと考えています。そのご、アルバニアの指導者は考え方をあらためたとみえて、われわれに書簡を送り、その中でこの種の会談のことについてふれています。一連の保留と条件をつけました。もしもそのねがいがかたしかにしめされるなら、われわれはよるこんで会談をおこないます。

ユーゴスラビアについては、その客観的な経済条件と政治条件についての分析と見通しにも



とづいて、われわれは、ユーゴスラビアは社会主義国であると考えており、それとの関係では、われわれは、ユーゴスラビア連邦人民共和国を社会主義共同体にちかづけるよう努力したいのです。これは、帝国主義に反対する世界のすべての勢力を連合するという各兄弟党の路線に合致するものです。われわれはまた、最近ユーゴスラビアの経済・社会・政治生活に生じた一定のこのましい傾向についても考慮しました。それと同時に、ソ連共産党はまた、ユーゴスラビア共産主義者同盟とのあいだにイデオロギーのうえで一連の重大な相違があることもみてとっており、この点についてはユーゴスラビアの同志に率直に告げ、かれらの正しくない観点を批判しなければならぬと考えています。

中国共産党中央委員会は、一九六三年三月九日付の書簡の中で、げんざい国際共産主義運動の発展のながにきわめて重大な時刻があらわれたというわれわれのべたことに同意を表明しました。今後われわれはおなじ隊列のなかでも前に進するか、それとも両国の労働者階級とわれわれの人民にとって、すべての勤労者にとって有害なたたかい——このたたかいは、お互いを疎遠にし、社会主義の力をそぎ、世界共産主義運動の団結を破壊へみちびくだけのものです——に自分さまきこまれるのを許すか、それは、われわれによつてきまるのであり、われわれの党によつてきまるのであり、われわれの政策の正否によつてきまるのです。

いうまでもなく、こうした状況のもとで、強大な党としてのソ連共産党と中国共産党がこうむる損害はより少ないでしょうが、しかし他の兄弟党、とりわけ複雑な状況のもとで活動している兄弟党には、きわめて大きな、不必要な困難をもたらすことになるでしょう。これはもちろん、われわれの目的とするところではありません。

すべては、重大で複雑なこうした状況のもとで、いかに振るまうかによつてきまります。さらに論戦の道をたどり、激情にかられて、論争をのしりあいにかえ、兄弟党にたいする根拠のない非難と攻撃にかえるか、それともわれわれの偉大な事業の運命にたいして自分が負っている高い責任を意識して、事態をちがった軌道——勇気をもってこんにちわれわれをひきはなしているものをのりこえて、非同志的な論戦をやめ、ソ連と中国の戦闘的協力をかため、すべての兄弟党の友宜をつよめる道をもとめるために努力を集中する——へ発展させてゆくかのいずれかであります。

さまざま意見のたたかいはなければ、共産主義運動をもふくめて、いかなる運動もありえないと、われわれは理解しています。しかし、どのような意見の相違にせよ、また、あれこれの党の行為にたいするどのような不満にせよ、国際共産主義運動の利益をそこなうような闘争手段をとるために弁護することはできません。国際労働者階級の目標と任務へのわれわれの理解が深げ

れば深いほど、われわれのあいだの意見の相違がこんなにちいかに重大なものにみえても、これらの意見の相違がわれわれの積極的な活動をさまたげず、国際労働者階級の革命活動に混乱をもたらさないように、われわれは平静な気持ちでその本質について討論できるため、いつそう努力をばらうべきであります。

われわれは、国際共産主義運動のマルクス・レーニン主義の方針の徹底的な実現をめざし、修正主義と教条主義に反対し、国際共産主義運動の隊列の団結をめざし、集団でとりきめた路線が尊重されるようにし、この路線にたいするあらゆる違犯と勝手な解釈に反対するために、共同してたたかおうではありませんか。

わが党は、論戦のたたかいに熱狂する境地におちいることはなく、世界共産主義運動にたいしてわれわれが負っている共通の責任を意識して、新たな渡りあいにおちいつている論争の危険な過程をとどめることにとめます。誰でもはつきり知つてるように、われわれもまた、ソ連共産党のレーニン主義の路線をまもり、国際共産主義運動の共同方針をまもり、最近中国の新聞や雑誌などの出版物に發表された文章のなかの根拠のない攻撃にこたえるため、いろいろとのべることができます。それをいまわれわれがしないのは、共産主義運動の敵によるこばせたくないからです。日ましに尖鋭化する論戦の危害が理解され、社会主義体制と国際共産主義運動の団結の

利益がすべてをしのごく上位におかれることを、われわれはのぞんでいます。したがって、われわれがあなたの方に会谈の開催を提案したのは、たたかいを尖鋭化するためではなく、国際共産主義運動の中に生じた、きわめて重要な問題についての相互理解を達成するためであります。

われわれは、世界各国の友人たちがみなこの会谈に期待をよせ、この会谈に大きな希望を託しているのを知っています。われわれの会谈がわれわれの友人をよろこばせ、共産主義の敵をかなしませる結果を得るかどうかは、われわれによつてきまるのであり、われわれの意志と理知によつてきまるのです。このことは、解放をめざすすべての抑圧されている人民の事業、平和と社会主義の全世界での勝利、マルクス・レーニン主義の偉大な革命的学説の勝利のためのたたかいの事業にたいするわれわれの共同の貢献となるでありますよう。

共産主義のあいさつをおくります！

一九六三年三月三十日

ソ連共産党中央委員会

### 中国共産党中央委員会のソ連共産党中央委員会あて書簡

(一九六三年三月九日)

ソ連共産党中央委員会

親愛な同志のみなさん

中国共産党中央委員会はソ連共産党中央委員会の一九六三年二月二十一日付の書簡を受け取りました。

毛沢東同志は二月二十三日、チュルボネンコ中国駐在ソ連大使と会見して下さい、あなた方の書簡にたいするわれわれの評価についてすでに説明しました。

われわれはあなた方からの書簡を歓迎します。われわれは、あなた方の書簡に示されている団結の願望を歓迎し、書簡に示されている兄弟党間の正常で平等な態度を歓迎し、世界各国共産党・労働者党代表者会議を開催する提案に、あなた方がはつきり賛成したことを歓迎します。

社会主義陣営の団結、国際共産主義運動の団結、中ソ両党・両国の団結を守ることは中国共産党の終始一貫した立場であります。団結の利益のために、われわれはこれまで自己の努力を惜し

んだことが一度ありません。われわれは団結に不利ないつさいのことがらにたいしては、つねに心を痛め、これに反対します。われわれは団結に有利ないつさいのことがらにたいしては、つねに喜び、これを支持します。

現在の国際共産主義運動のなかの一連の重大な原則問題における意見の相違が深刻であるという現実をわれわれは直視しなければなりません。これらの意見の相違が生まれた原因は、あなた方の書簡にある「国際共産主義運動のあれこれの隊列が活動している条件がちがつていることによつて説明できる」ほかに、さらに主な要因はマルクス・レーニン主義にたいする認識と態度、モスクワ宣言とモスクワ声明にたいする認識と態度の問題であるとわれわれは考えます。

中国共産党は、兄弟党のあいだに原則問題での意見の相違が生じた場合は、団結の願いから出発して、同志的な討議と相互批判をおこない、是非をあきらかにし、マルクス・レーニン主義を基礎にして、団結の目的を達成しなければならない、と一貫して主張してきました。つまり、モスクワ宣言とモスクワ声明の規定する原則と方法にしたがい、国際共産主義運動の内部で、平等な話し合いの原則により、両党会談、多数の党の会談、あるいは兄弟党会議の方法で、兄弟党間の意見の相違を解決すべきであります。

中国共産党は、兄弟党間の意見の相違を敵のまゝに公然とさらけ出すことに一貫して反対してきました。われわれはまた、党大会の開催、党中央委員会の決議あるいは声明、党や国家の指導者の論文、演説の方法によつて、論争の色合いをこくし、問題の複雑さをふかめることにはなおさら反対であります。こうしたやり方は、われわれの敵をよるこぼせ、われわれ自身の隊列に困難をつくりだし、とくに資本主義諸国の兄弟党に困難をつくりだすことを、われわれはよく知っており、また再三このことをのべてきました。事態の発展は、われわれの憂慮がけつして余計なことではなかつたことを証明しました。現在、ますます多くの兄弟党が公然たる論争の中止を希望するようになりましたが、これはよい現象であります。われわれは、もつとも短かい期間内に、兄弟党間の公然たる論争が停止されることを心からのぞんでいます。

国際共産主義運動はたしかに重大な時期にたちいたっています。兄弟党間の意見の相違という問題は、たしかに解決しなければならぬ時期にきています。

われわれはひじょうによい国際情勢に直面しており、この情勢は世界の革命にとつてきわめて有利であります。われわれには意見の相違をとりのぞかず、団結をつよめないような理由はありません。

世界全体の力関係で優勢なのは社会主義と革命的人民の側で、帝国主義とその手先の側ではありません。

社会主義の力と、アジア、アフリカ、ラテンアメリカの民族民主革命の力、現代のこの二つの偉大な歴史の潮流は、アメリカをかしらとする帝国主義の反動支配の堤防に激突しています。

帝国主義相互間の矛盾、とくにアメリカ帝国主義とその他の帝国主義との矛盾はますます深刻となり、ますます鋭くなり、かれら相互間には、あらたな衝突がくりひろげられています。

このような情勢のもとで、アメリカをかしらとする帝国主義に反対する闘争、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国の被抑圧民族と被抑圧人民の革命闘争への支援は、プロレタリアートの国際的事業全体にとって決定的な役割をもっています。

このような情勢のもとで、さらに社会主義諸国の力を発展させ、民族解放運動を発展させ、被抑圧人民の革命闘争を進展させ、世界平和擁護運動を進展させ、同時に、帝国主義陣営内部の矛盾を十分に利用するならば、あらたな世界大戦を制止し、世界の平和をまもることがいつそう可能となります。

このような情勢のもとでは、なによりもまず社会主義陣営の団結をつよめ、国際共産主義運動の団結をつよめなければなりません。マルクス・レーニン主義者の団結を中核にして、全世界のプロレタリアートの団結をつよめ、全世界のプロレタリアートとすべての被抑圧民族、すべての被抑圧人民との団結をつよめ、全世界の帝国主義反対に賛成するすべての人民の大団結をつよめ

ることは、われわれの共同の事業の勝利の保証であります。

モスクワ宣言とモスクワ声明はわれわれの共同闘争のために共通の路線、方針、政策を制定しました。この二つの文書には、当面する時代の性質、社会主義陣営、社会主義革命と社会主義建設の共通の法則、帝国主義に反対する闘争、戦争と平和、社会制度の異なる国家間の平和共存、民族解放運動、資本主義国家の労働運動の任務と戦術、当面の主な危険である修正主義反対と教条主義反対、マルクス・レーニン主義を裏切ったユーゴスラビア修正主義とひきつづき闘争をおこなうこと、兄弟党、兄弟国間の関係の独立、平等、話し合いによる一致の準則などについて、明確な結論がでています。中国の共産主義者は、自分の言論と行動のなかで、これらの正しい路線、方針、政策をあくまでもかわることなくつらぬき、まもっています。ソ連共産党の同志も書簡のなかでこの二つの綱領的な文書に忠実であると表明されたことを、われわれはひじょうによろこんでいます。

マルクス・レーニン主義の基礎のうえに、モスクワ宣言とモスクワ声明の基礎のうえに立て、意見の相違を克服し、団結をつよめることは、全世界人民の利益、各国共産主義者の利益、社会主義陣営諸国人民の利益にかなうものであり、中ソ両国人民の利益にかなうものであります。反対に、ひきつづき意見の相違を深め、団結を破壊するならば、未来の世代がわれわれを許

さなだけでなく、現在の人民大衆もわれわれを許さないではありません。

中国共産党中央委員会は、意見の相違をとりのぞき、団結をつよめるため、一九六二年四月七日ソ連共産党中央委員会に書簡を送りました。この書簡で、中国共産党中央委員会は、インドネシア共産党、ベトナム労働党、スウェーデン共産党、イギリス共産党、ニュージーランド共産党が提起した兄弟党会議開催の提案を支持するとともに、各国共産党・労働者党代表者会議を開催し、みなが関心をもつ問題を討議するようはつきり提起しました。ソ連共産党中央委員会もこんどの書簡で、各国共産党・労働者党代表者会議を開催するよう主張していることを、われわれはひじようによるこんでいます。」

われわれは一九六二年四月七日の書簡でまた、兄弟党会議を開催し、しかも会議を成功させるため、事前に多くの障害を克服し、多くの準備をしなければならぬと指摘しました。当時われわれはつぎのように主張しました。」

第一、たがいに論争のある兄弟党と兄弟国は、たとえそれがささいな措置であっても、関係をやわらげ、団結を回復するのに役立つ措置をとって、ふんい気を改善し、兄弟党会議の開催と成功のための条件をととのえること。

第二、ベトナム労働党が提出した、公然たる攻撃を停止するという提案を支持すること。

第三、一部の兄弟党間で、必要におうじて、両党あるいは多数の党の会談をおこない、意見を交換すること。」

第四、ソ連の同志とアルバニアの同志が、どちらも積極的な措置を講じて、意見の相違をとりのぞき、両党と両国の正常な関係を回復するよう心から希望する。これについては、ソ連の同志がイニシアチブをとることが必要であるように思われる。」

第五、一九五七年の兄弟党会議の決議にもとづき、各国共産党・労働者党代表者会議は、ソ連共産党が兄弟党と協議したうえ招集する責任を負うこと。

現在われわれはやはり、以上の主張が兄弟党会議をりっぱにひらくのに重要なことであると考えています。」

ソ連共産党中央委員会もこんどの書簡で、兄弟党会議をりっぱにひらくうえでの有益な提案をおこなっていることを、われわれはひじようによるこんでいます。

われわれは、「われわれの団結を確保し、すべての兄弟党の相互関係のふんい気を改善する具体的な実践的措置を即時にとることがとりわけ重要である」というご意見に賛成します。

兄弟党会議開催のよいふんい気をつくるためにわれわれは、ソ連共産党その他の兄弟党の同志が中国共産党にたいして公然と名ざしで行なった攻撃にたいして、すでに答えた数編の論文をの

ぞき、新聞や、出版物での公然とした回答は今から一時停止することを決定しました。当然のことながら、兄弟党間の平等とやりとりの原則にもとづいて、中国共産党を公然と名ざしで攻撃した兄弟党のあらゆる言論に対しては、われわれは公然と答える権利を保留します。この事についても、われわれ両党および関係のある各兄弟党で討議し、それぞれがうけいられる公平なとりきめを結ぶことが必要であります。

われわれは、あなた方の書簡で提起された中ソ両党の会談開催についての提案を歓迎します。

このような会談は各国共産党・労働者党代表者会議の開催に必要な準備の段取りであると考えます。毛沢東同志は、チェルボネンコ同志との談話のなかで、フルシチョフ同志がカンボジア訪問のさい北京にたちより、両党会談をひらき、意見を交換するよう希望するとのべました。もしあなたがたの都合がわるければ、ソ連共産党中央委員会のその他の責任ある同志のひきいる代表团が北京にきてよいし、あるいはわれわれの代表团をモスクワに派遣してもよいのです。

われわれは、「話し合いにあたっては、両党がともに関心をもつすべての重要問題、とりわけわれわれの闘争の共通の任務と関係のある問題について、ひとつひとつ討論してもよい」というあなたがたの意見に賛成します。われわれは、中ソ両党会談で討議する必要のある問題は、各国共産党・労働者党代表者会議で討議する必要のある問題でもあり、それはなによりもまず現代の世界

革命の戦略と戦術の問題、帝国主義に反対し世界平和をまもる問題、被抑圧民族と被抑圧人民の解放闘争の問題、社会主義陣営の力と団結をつよめる問題、国際共産主義運動の団結をつよめる問題、およびその他の関係ある共通の問題であると考えます。これらすべての問題は、マルクス・レーニン主義の根本原理にもとづき、モスクワ宣言とモスクワ声明の革命的原則にもとづき、ひとつひとつ十分にくわしく、同志的な討論をおこない、形式的でなく真に平等な話し合いをおこなわなければなりません。双方が一致して同意したことは、その場で解決し、とりきめをおこなってよいのです。意見がくいちがい、ただちに解決できないことは、しばらくそのままにしておいて、その後の解決にまってもよいのです。一回で話し合いがおわらなければ、何回でも話し合えばよいし、両党の会談を何回でも開けばよい、とわれわれは主張します。

国際共産主義運動の団結をつよめ、社会主義陣営の団結、とりわけ中ソ両党・両国の団結をつよめることは、中ソ両国人民の一致した願いであり、社会主義陣営各国人民の一致した願いであり、各国の共産主義者の一致した願いであり、また全世界の被抑圧人民と被抑圧民族の一致した願いでもあります。われわれは、われわれ両党の負っている責任を理解しており、かれらの期待にそむいてはなりません。われわれは、マルクス・レーニン主義の基礎のうえに、プロレタリア国際主義の基礎のうえに、モスクワ宣言とモスクワ声明の基礎のうえに立って団結しようではあ

りませんか。

共産主義のあいさつをおくりませう！

一九六三年三月九日

中国共産党中央委員会

### ソ連共産党中央委員会の中国共産党中央委員会あて書簡

(一九六三年二月二十一日)

中国共産党中央委員会

親愛な同志のみなさん

ソ連共産党中央委員会は、われわれの共通の事業の最高の利益にみちびかれ、マルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義とモスクワ会議の宣言および声明の諸原則にもとづいて、世界共産主義運動の団結を強化するため共同の努力をばらう必要性についての、われわれの熟慮していることをつたえるため、みなさんにこの書簡をおくることを決定しました。われわれは、現在の条件のもとでマルクス・レーニン主義政党にとつて、われわれの隊列の団結と全社会主義諸国の団結の強化をめざす闘争より以上に重要な任務はないとふかく確信して、この手紙をみなさんに書くものであります。

平和と社会主義の偉大な事業を尊重する人はすべて、さいきん共産主義運動内におきた情勢にふかい憂慮を感じないわけにはいきません。ますます尖鋭化してきた公然たる論争は、兄弟諸党



の団結を動揺させ、われわれの共通の利益をいちじるしく害しています。国際共産主義運動の隊列内におこつた論争は、帝国主義にたいする闘争を順調にすすめるのを阻害し、国際舞台における社会主義諸国の努力をよわめ、兄弟諸党の活動に、とりわけ複雑な国内政治情勢が生起している資本主義諸国の兄弟諸党の活動に、有害な影響をあたえるものであります。

社会主義の敵は、共産主義運動の内部におこつた意見の相違を利用して、社会主義諸国を離間させ、民族解放運動を分裂させ、自己の陣地を強化しようとしてつとめています。

帝国主義侵略者は、世界のあたらしい力関係の条件のもとで、結束した社会主義共同体を戦争によつてうちまかすことができません。だから帝国主義侵略者は、われわれの団結を破壊するという大バクチをうっているのです。もし、われわれが共通の敵にたいする闘争で団結を維持せず、もし、われわれが帝国主義の面前でばらばらの行動をとるならば、そのことはわれわれの努力をよわめるだけであり、したがつて社会主義の敵の陣地を強化するだけであります。各国のマルクス・レーニン主義政党、なかんずくソ連共産党や中国共産党のような最大な党の直接的な義務は、共産主義運動を重大な困難に直面させるような方向に事態が進展することをゆるさず、現在の不正常な状態をなくして共産主義運動の隊列の統一と社会主義共同体の団結を達成するためにあらゆることをつくすことであります。

われわれは、こんにち共産主義運動が経験している困難が一時的なもので、かならず克服されるものである、とふかく確信しています。われわれの統一と団結を強化するのに必要なすべてのものをわれわれはもっています。世界社会主義の発展という歴史的展望の見地から現在の情勢を評価してみると、ソ連共産党と中国共産党とすべてのマルクス・レーニン主義政党を統合している共通した主要なものは、現在の意見の相違よりもはかりしれないほど高度な、かつ意義ふかいものであるという結論を、われわれはひきださないわけにはいきません。われわれはプロレタリアート・全世界の勤労者の階級的利益の一致と、偉大なマルクス・レーニン主義の学説によつて結束しています。こんにち、われわれの意見の相違がどれほど重大にみえるものであるとしても、資本主義にたいする社会主義勢力の偉大な歴史的闘争で、われわれがみなさんとともにバリエードの同一のがわに立っていることを、忘れてはなりません。

われわれは、現在の情勢の複雑さのすべてを理解するとともに、現在の意見の相違を誇張したり、おおげさにはやしたてたりしてはならない、と考えています。共産主義運動のなかでおこなわれている論争についての客観的分析は、多くのばあい、いまおこっている意見の相違が論争過程で故意にあおりたてられ、尖鋭化させられ、また紛争問題に過当の力点がおかれていることをしめしています。論戦熱が、しばしば、生起している問題の実体をおだやかで冷静に評価するの

をさまざまに、われわれの団結の基礎となつてゐる主要な事柄をおおいかくすことになつてゐます。

各国のマルクス・レーニン主義政党は、モスクワ會議の宣言および声明という共同で作成した綱領的文書をもつており、これにたいして忠実であることをつねに強調しています。ソ連共産党は、世界共産主義運動で合意にたつた共同の路線を一貫して実行しながら、帝国主義に反対し、全世界における社会主義と共産主義の偉大な理想の勝利をめざす積極的な闘争をおこなつてゐます。わが党は、あたらしい世界戦争をふせぎ、平和と諸国人民の安全を強化する闘争に力をおしむものではありません。ソ連共産党とソ連政府は、あらゆる手段——経済的、政治的、ないしは兵器による援助——をもつて、民族解放運動を支持しています。プロレタリア国際主義に忠実なソ連共産党は、「万国のプロレタリア、団結せよ」という戦闘的スローガンをつねにまもつてゐます。ソ連共産党は、社会主義世界共同体の強化と、歴史の發展の全過程にたいする影響力の強化のためにとめてゐます。ソ連における共産主義建設の成功は、世界社会主義の強化とその権威と魅力をたかめる事業にたいするソ連人民の貢献であります。

中国共産党としても、自分が宣言と声明の立場を確固としてまもり、これらにふくまれてゐる結論と命題を遵守し、帝国主義に反対して全世界における社会主義と共産主義の勝利をめざして

闘争することを主要な目的としてゐる、とたえず指摘しています。中国共産党は、異なる社会制度をもつ国ぐにの平和共存の政策に忠実であることを強調し、あたらしい世界戦争を防止する可能性にかんする声明の結論の正しさを指摘しています。中国共産党中央委員会は、プロレタリア国際主義の原則が各共産党と社会主義諸国の相互関係における主要原則であることを承認し、「万国のプロレタリア、団結せよ」のスローガンに忠実であることを確認しています。

このような根本問題にたいする共通の立場は、団結を強化し、生起してゐる困難を克服するのによい土台であります。二回にわたるモスクワ會議の文書をかたく遵守するならば、現在の意見の相違を尖鋭化させる本質的理由はなにもないのであります。なぜならば、こうした意見の相違は正しい解決がみいだされるからであります。

もちろん、現在の世界發展のいくつかの問題にたいするちがつた理解の仕方が共産主義運動のなかに発生することはありうるし、現に発生しているという事は、否認できないことでもあります。このことは、国際共産主義運動のあれこれの隊列が活動している条件がちがつてゐることによつて、説明されます。だが、このような見解の不一致は、故意に誇張されないならば、けつしてふかい衝突をひきおこすようなことになつてはならないし、このような不一致は、共同の同志的な協議を通じて十分に克服されるものであります。

これらすべてのことをかんがえて、ソ連共産党中央委員会は、われわれの団結を確保し、すべての兄弟党の相互関係のふんい気を改善する具体的な実践的措置を即時にとることが、とりわけ重要であるとかんがえています。ソ連共産党中央委員会第一書記エヌ・エス・フルシチフ同志がドイツ社会主義統一党第六回大会で、各共産党間の論争ならびに自党内でおこなう他党の批判を中止することをわが党を代表して提案したのは、このような考慮によるものであります。周知のように、この提案は世界共産主義運動に広範な反響をよび、支持されました。

ソ連共産党中央委員会は、本書簡で、現在あらわれている困難を克服するあらたな措置をとることをのぞんでいます。われわれの友好を強化し、相互の理解をふかめるために、われわれは、ソ連共産党と中国共産党の両党間代表者会談をひらくことを、中国共産党中央委員会にたいして提案するものであります。われわれは、この会談が重要であることをかんがえ、また会談の目的の達成をさらに確実なものとするため、むしろ高級会談をひらいたほうがよいとおもいます。話し合いにあたっては、両党がともに関心をもつすべての重要問題、とりわけわれわれの闘争の共通の任務と関係のある問題について、ひとつひとつ討議することができであります。実際上違つた見解が存在することが証明されている諸問題については、われわれの立場を接近させるうえに役だつ措置について、合意に達せられなければなりません。みなさんがこのような会談に

同意するならば、会談をひらく場所と時期はべつに決定してよいのであります。

ソ連共産党と中国共産党の代表者会談は、その意義がすべての人にあきらかなものなので、各国のマルクス・レーニン主義政党的の会議を準備するためにも、また会議の成功に欠くことのできなふんい気をつくりだすためにも重要な役割をはたすのであります。

ソ連共産党は、他のおおくの兄弟党とおなじように、会議招集のためのきわめて重大な根拠があることを考慮にいれて、過去においても、現在においても会議の招集を主張してきました。この会議では、帝国主義とその侵略計画に反対する闘争、各国人民の解放運動のいつそうの前進、社会主義世界共同体の結集と全面的な発展および全世界における社会主義世界共同体の影響力の強化、共産主義運動の団結の強化のための闘争という共通任務に、注意が集中されなければならないと、われわれはかんがえます。

われわれは、すでに一九六二年五月三十一日付の書簡でみなさんにたいし会議をひらく必要性について、われわれの見解をのべておいたが、いま、ふたたびこれを確認するものであります。会議が各国のマルクス・レーニン主義政党的の結束をいつそうすすめ、その団結をいつそう強めるようにするために、全力をつくすことは、われわれの共通の義務であります。われわれは、現在の困難を克服するためのあらゆるイニシアチブを注意ぶかく研究し、支持する用意があります。

こんにち、主として必要なことは、生起している問題をマルクス・レーニン主義を基礎にして解決する善意を表明し、われわれの団結の強化をさまたげるどのような行動をもゆるさないことでもあります。

親愛な同志のみなさん

すべてのマルクス・レーニン主義政党は、世界共産主義運動の発展にとつていまやきわめて重大な瞬間が到来したことを理解しています。われわれがひとつの隊列のなかで共に前進しつづけるか、それともわれわれ自身を離間し、社会主義勢力を弱め、世界共産主義運動の団結を破壊する困難かつ不必要な闘争にまきこまれるのを放置することになるかは、われわれによって、わが両党によって、われわれの政策の正しさにかかっています。

われわれ両党は、ソ連と中国の人民が兄弟として生活できるようにする歴史的責任を負っています。ソ連共産党と中国共産党の団結は、社会主義共同体と全共産主義運動にとつてきわめて大きな意義をもっています。二つの体制のあいだに激烈な闘争がおこなわれている現在の状況のもとで、われわれが、マルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義の原則にみちびかれ、現在おきている意見の相違を克服する勇氣と力をわれわれ自身のなかに見いださなければ、未来の世代はけつしてわれわれをゆるさないであります。自国を資本主義のくびきからすくいだ

した革命運動の最初の部隊は、あたらしい型の関係、諸国人民のあいだの兄弟的友好関係を確立し発展させ、全人類にたいして未来の社会主義社会の模範を創造するという偉大な任務を、歴史によって課せられています。われわれ両党は、現在の情勢からぬげでる道をさがし、われわれのあいだの友好をさまたげているものを勇敢かつ断固として一掃する義務をもっています。これこそマルクス・レーニン主義者がすすむことができるし、またすすまなければならないただひとつの道であります。

われわれは、現在おきている意見の相違を克服することがソ連共産党と中国共産党の利益に合致するばかりでなく、平和と民族独立および民主主義と社会主義をめざす国際共産主義運動の共通の闘争の基本目的にも合致する、とふかく確信しています。善意をしめし、われわれの闘争の目的と利益をふかく理解するかぎり、どんな障害も、われわれがわれわれの友情の強化・発展、国際共産主義運動の団結の強化・発展をさまたげることとはできないのであります。

共産主義のあいさつをおくります！

一九六三年二月二十一日 モスクワにて

ソ連共産党中央委員会

国際共産主義運動の総路線についての提案  
ソ連共産党中央委員会の1963年3月30日付の  
書簡にたいする中国共産党中央委員会の返書

1963年 初版発行

定価 50 円

出 版 者 外 文 出 版 社  
中 華 人 民 共 和 国  
北 京 阜 成 門 外 万 芳 荘

編号: (日)3050-646

3-J-556P  
00076

